

中日会報

公益社団法人 中日書道会
 編集事務局 名古屋市
 〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45-19
 桑山ビル8階C号室
 電話 (583) 19000番
 F A X (583) 19100番
<http://www.cn-sho.or.jp>
 info@cn-sho.or.jp
 印刷 株式会社 荒川印刷

理事長挨拶



理事長
伊藤 仙游

心地よい季節を迎え、皆様には益々ご清祥の御事とお喜び申し上げます。

中部日本書道会の平成三十一年度・令和元年度の運営は、皆様の絶大なご協力を頂き滞りなく終える事ができました。理事長としての最初の年度を無事終える事ができ安堵するとともに、皆様方のお陰と心から感謝申し上げます。

さて、令和二年度は波乱の幕開けとなりました。今年になってから表面化した新型コロナウイルスが、全世界的に猛威を揮い感染症の大流行を引き起こし、皆様ご承知のように日本でも感染者が拡大、様々な事業が中止及び延期となっております。本日（三月二十八日）現在の国内感染者の累計は一、六一四名、愛知県では一六三名とまだまだ勢いが衰えない状況で、東京都では一日に六十三人の感染者が出るなど先行きの不透明感は拭えません。

このため本会でも、二月の理事会・評議員会

でご承認を頂いた第七十回記念中日書道展及び記念事業「世界の書の祭典」の開催を、理事の先生方にご承諾を得てやむを得ず本年度は中止する事に致しました。

中日書道展は審査会に一五〇名近くの人（審査員・係）が集まる事・展覧会場の会期延期が難しい事、記念事業は外出自粛等で充分な準備ができない事・先行きが不透明である事など、皆様方の健康・安全を最優先に考慮した結果、苦渋の決断ではありましたが両事業の中止を決定した次第です。

中日書道展ご出品の準備を進めておられた方々、記念イベントに期待をして下さった方々には、大変申し訳なく存じて居ります。

皆様安心してご参加頂けますよう令和三年度の事業に、第七十回記念中日書道展と記念イベント「世界の書の祭典」のご提案を考えております。その折には宜しくご出品ご協力頂きますようお願い申し上げます。

中日書道展中止の影響は大きく、この他の令和二年度事業が何とか遂行できますよう、できる限りの努力を重ねて参りたいと存じます。役員の方々はじめ会員の皆様には事情ご賢察のうえ、何卒ご協力ご支援のほどお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様ご自愛専一になさり、ご健康にお過ごし下さいますようお願い申し上げます。

目次

- 1 理事長挨拶
- 2 令和元年度第四回理事会・第一回評議員会開催
- 3 祝賀懇談会
- 4 第七十回記念中日書きぞめ展
- 5 令和元年度第四回理事会内容（抜粋）
- 6 第三十七回読売書法展 当番審査員
- 7 第七十二回毎日書道展
- 8 改組 新 第六回日展東海展中日賞
- 9 第七十回記念中日書きぞめ展・受賞者
- 10 支部だより（下半期）

令和元年度

第四回理事会開催

本年度第四回理事会が理事二十八名、監事三名の出席を得て開催されました。

岡野楠亭副理事長の開会のことは、伊藤仙游理事長の挨拶ののち議事に入りました。

令和二年度の事業計画案、令和二年度の収支予算案、中日書道展の審査会員の承認、特別昇格者の承認、評議員の承認、正会員の承認、名誉顧問の承認、常任顧問の承認につきまして、慎重審議が行われ、全会一致で承認されました。閉会のことは、加藤裕副理事長。



内容の詳細はP4～9に記載

令和元年度

第一回評議員会開催

日時 令和二年二月十一日 午後三時三十分
 会場 名古屋観光ホテル

本年度評議員会が三五一名出席を得て開催されました。松下英風副理事長の開会のことは、安藤滴水名誉副会長の挨拶ののち議事に入りました。

伊藤仙游理事長が議長となり、先に開催された理事会の決定事項の報告会という形で開催され、詳細に報告されました。

閉会のことは、岡野楠亭副理事長。



**令和元年度 第4回理事会・第1回評議員会・講演会
改組新第6回日展入選・読売準大賞・読売新聞社賞・毎日展会員受賞者 祝賀懇談会 開催
顧問加藤子華先生令和元年度地域文化功労者文部科学大臣表彰ご受賞**

祝賀懇談会を開催して

厚生部長 古川昇史



祝賀懇談会風景



地域文化功労者文部科学大臣表彰の加藤子華先生

去る二月十一日（火）令和元年度第四回理事会・評議員会懇談会が、三七二名の多くの出席者で名古屋観光ホテル三階那古の間において開催されました。

加藤裕副理事長の開会の言葉で始まり、本

会名誉副会長鬼頭翔雲先生からのご挨拶を戴

きました。ご来賓、本会役員の皆様のご紹介の後、顧問加藤子華先生ご受賞（令和元年度地域文化功労者文部科学大臣表彰）に本会名誉会長代行樽本樹郎先生より花束と記念品が

贈呈されました。引き続き、令和元年度改組新第六回日展審査員、東海展中日賞、初入選者の皆様にそれぞれ、花束、ブーケ、記念品が授与されました。第三十六回読売準大賞、読売新聞社賞受賞者に本会名誉副会長鬼頭翔雲先生よりブーケ、記念品が授与され、第七十一回毎日書道展会員賞受賞者に名誉副会長安藤滴水先生よりブーケ、記念品が授与されました。続いて乾杯



日展新入選の皆様

のご発声を常任顧問伊藤昌石先生より頂き、祝宴が始まりました。和やかな宴となり、第七十回記念中日書道展、「世界の書の祭典二〇二〇」のイベントに向け一層の努力と協力を願い、松下英風副理事長の閉会の辞により会は閉じました。

令和元年度 講演会を開催して

研究部長 武内峰敏

講師 元文部科学省教科調査官 東京学芸大学名誉教授 加藤 東陽氏
演題 「文字文化を育む書写書道教育」

令和元年度講演会が令和二年二月十一日（火）名古屋観光ホテル曙東の間において開催されました。

元文部科学省教科調査官・東京学芸大学名誉教授の加藤東陽氏が「文字文化を育む書写書道教育」と題して本会会員ら四百人前に講演。軽妙な語り口で時には笑いを誘いながら、社会の変化と文字環境や令和二年度から始まる新学習指導要領の基本的な考え方を説かれました。

今は、法帖を持たずスマホを活用して実技をする学生もいる状況に驚きの声が上がります。文字文化と書写書道（十の要素）の具体的な内容には皆がペンを走らせていました。講演終了後には「時間が足りないう、もっとお話を伺いたかった。」との声が多数ありました。最後になりましたが、ご多忙中にもかかわらずご講演をいただきまして加藤東陽先生に厚く御礼申し上げます。



講演会風景

令和二年度

「第七十回記念中日書道展」

「記念事業 世界の書の祭典二〇二〇」

中止のお知らせ

令和二年度本会事業の「第七十回記念中日書道展」および「記念事業 世界の書の祭典二〇二〇」につきまして、新型コロナウイルス感染症の流行を鑑み、今後の状況も不透明であり、健康・安全を最優先に考慮し、誠に残念ではありますが、中止にさせていただきますことになりました。

なお、令和三年度の「第七十回記念中日書道展」および「記念事業 世界の書の祭典二〇二二」の開催を改めて協議いただき、充実した中日書道展・記念事業にしたいと存じます。何卒ご理解・ご協力賜りますようお願い申し上げます。

団体署名実施協力中

つなごう日本の書道文化
ユネスコの無形文化遺産に



日本書道ユネスコ登録推進協議会

第70回記念 中日書きぞめ展

出品点数 14,939点

第七十回記念中日書きぞめ展

教育部長 廣澤凌舟

二月一日(土) 桑山ビル三階C室におきまして第七十回記念中日書きぞめ展審査会(審査員五十一名)を開催いたしました。

愛知県、岐阜県、三重県、遠くは愛媛県より一四、九三九点の応募があり、厳正な審査の結果、各賞(文部科学大臣賞(入選))が決定いたしました。

三月十四日(土)、十五日(日) 矢場町ナディアパークでの開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの影響により展覧会(中日書道展での展示含む)、受賞式が全て中止となり、楽しみにしていた皆様には大変ご迷惑をお掛けいたしました。来年も中日書きぞめ展開催を予定しております。その節は多数のご出品をお願いいたします。



書きぞめ展審査風景

令和元年度 公益社団法人 中部日本書道会 第四回理事会内容 (より 抜 粋)

日時 令和二年二月十一日(火・祝)
場所 名古屋観光ホテル

令和元年度 公益社団法人 中部日本書道会 第四回理事会 次 第

- 一、開会のことば
- 二、理事長あいさつ
- 三、議 事

- 第一号議案 令和二年度事業計画(案)に関する件
- 第二号議案 令和二年度予算(案)に関する件
- (1) 収支予算書
- (2) 正味財産増減予算書
- (3) 事業区分後の正味財産増減予算書
- (4) 資金調達及び設備投資の見込みについて特別算格者の承認に関する件
- 第三号議案 評議員の承認に関する件
- 第四号議案 正会員の承認に関する件
- 第五号議案 審査委員の承認に関する件
- 第六号議案 名誉顧問の承認に関する件
- 第七号議案 常任顧問の承認に関する件
- 第八号議案 常任顧問の承認に関する件
- その他
- 四、閉会のことば

第一号議案 令和二年度事業計画(案)に関する件

I 書道普及振興事業(公益目的事業 1)

- 一 展覧会等の事業
本会は、出版作品の審査を行う公募展である中日書道展を企画運営することによって、従来より、書道文化の普及発展に寄与していることは周知されていることである。加えて、初心者、若年層および地域の書道愛好家のために、これにふさわしい書道展の開催も必要不可欠である。そのため本会では、中日書きぞめ展、一宮支部学生展、半田支部学童書道展、西三河支部学生展を出版作品審査を行う公募展として開催する。また、書道芸術の発展のためには、書の技量の上達だけでなく、書に関する幅広い教養の習得も必要である。このため、本会では、書道教育研修会、公開講座、講演会、研修会を実施する。
- (1) 中部日本書道会第七十回記念中日書道展 併催一令和を拓く大作展
会期 令和二年六月十六日～七月五日

会場 愛知県芸術文化センター

- 愛知県美術館ギャラリー
- 名古屋市民ギャラリー
- 名古屋市博物館

- (2) 第七十一回中日書きぞめ展
会期 令和三年三月
会場 ナディアパーク アトリウム
- (3) 中日支部学生書道展
第四十九回一宮支部学生書道展
会期 令和二年十一月二十一日～二十二日
会場 一宮スポーツ文化センター
- (4) 第五十六回半田支部学童書道展
会期 令和二年七月
会場 半田市福祉文化会館(雁宿ホール)
- (5) 第五十三回西三河学生書道展
会期 令和二年七月三日～五日
会場 岡崎市美術館
- (6) 第三十二回書道教育研修会
日時 令和二年十月十八日
会場 名古屋国際センター
- (7) 夏休み毛筆体験教室
日時 令和二年八月四日
会場 電気文化会館イベントホール
- (8) 第二十四回公開講座
日時 令和二年十一月十五日
会場 電気文化会館イベントホール

II 福祉事業(公益目的事業 2)

本会では、従来より社会福祉法人への募金による社会事業への協力奉仕を行っている。引き続き本年度も、会員のうち有志から募金を募り、社会福祉法人中日新聞社会事業団および社会福祉法人東海テレビ福祉文化事業団に寄付をおこなう。

III その他の事業(相互扶助等事業)

- (1) 令和二年チャリティー愛の募金
—しあわせ薄い人々に愛の手を—
期間 令和二年十月～十二月
- (2) 本会は、出版作品の審査を行わない公募展及び会員向け書道展として、壽書展及び各支部において支部展・支部選抜展を行う。
また、会員を対象として、本部講演会を開催し、会員の資質向上に寄与することとする。
- (3) 支部においては、会員向け講習会・講演会を行い支部会員の資質向上に努めている。このほか、本会では会員の研鑽・資質向上のため、本部および各支部において記念事業、研究会、研修会、研修旅行を行う。
会員の福利厚生のために、必要とする事業を行う。
- (4) 出版作品の審査を行わない公募展及び会員向け展覧会
- (5) 第二十九回寿書展
会期 令和二年十一月十日～十一月十五日
会場 電気文化会館東・西ギャラリー
- (6) 支部展・支部選抜展
第六十六回一宮支部展
会期 令和二年十一月二十一日～二十二日
会場 一宮スポーツ文化センター
- (7) 第五十四回半田支部展
会期 令和二年九月
会場 半田市福祉文化会館(雁宿ホール)
- (8) 第五十三回西三河支部会員展
会期 令和二年二月
会場 岡崎市美術館
- (9) 第四十四回東三河支部展
会期 令和二年七月十四日～十九日
会場 豊橋市美術館
- (10) 東三河支部選抜展
会期 令和三年二月二日～七日
会場 豊川市桜ヶ丘ミュージアム
- (11) 第三十五回濃尾支部展
会期 令和二年八月二十一日～二十三日
会場 高山市民文化会館
- (12) 第三十四回北勢支部展
会期 令和二年七月十七日～十九日
会場 四日市市文化会館
- (13) 第三十四回中南勢支部展
会期 令和二年十一月十八日～二十二日
会場 三重県立美術館
- (14) 第二十六回岐阜支部展
会期 令和二年九月十一日～十三日
会場 岐阜市民会館
- (15) 講演会 北勢(令和二年七月)
講演会 東三河(令和三年二月)
北勢(令和三年二月)

IV 管理業務

- (1) 研究会 西三河(令和三年三月) 研修会
- (2) 一宮(令和二年十月)、半田(令和二年十一月)、西三河(令和二年十月)、東三河(令和二年十一月)、北勢(令和二年十一月)、中南勢(令和二年十月)、岐阜(令和二年十一月)、濃尾(令和二年十一月) 福利厚生事業
- (3) ① 塾総合保険
- (4) ② 老人会色紙贈呈
- (5) 半田支部においては、例年、地域(半田市・阿久比町・東浦町・武豊町・美浜町・南知多町)の老人会に対して色紙を贈呈して敬老の意を表している。
- (6) 期日 令和二年八月
- (7) その他各種事業
- (8) ① 書道に関する調査研究および発表
- (9) ② 書道教育者の推薦書および看板の交付
- (10) ③ 外国研修旅行補助
- (11) ④ 組織拡大事業
- (12) ⑤ 会員章(門章・襟章)の交付
- (13) ⑥ 広報活動事業
- (14) ⑦ ホームページによる情報提供
- (15) ⑧ 資料文献収集保存事業
- (16) ⑨ 記念功労者等顕彰事業
- (17) ⑩ 書道功労者等顕彰事業
- (18) ⑪ 世界各書展の祭典二〇二〇(八月三日 休館日)
- (19) ⑫ 世界各書展の祭典二〇二〇(八月三日 休館日)
- (20) ⑬ 役員による「匠の書展」「世界の国名」色紙展・小品書展(ハガキサイズ)・学生書展(中日新聞紙上展優秀作品)・国際交流書展(外国人作品・チャレンジ書展(障がい者作品))
- (21) ⑭ イベント
日本文化体験・書道体験・作品揮毫・支部オリジナルデモンストレーション・夏休み子供書道体験教室・夏休み書写宿題お助けコーナー・企業ロボット文字書きコンテスト・学生書展(中日新聞紙上展)
- (22) ⑮ その他 各種行事
- (23) ⑯ 管理業務
本会の事業遂行のため以下の会議を行う。
- (24) 一 総会 一回(令和二年六月)
- (25) 二 理事会 二回(令和二年五月、令和三年二月)
- (26) 三 評議員会 一回(令和三年二月)
- (27) 四 企画委員会 十二回(各月)

第二号議案 令和2年度予算(案)に関する件 (1) 収支予算書

令和2年度 収支予算書(案) 自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日 公益社団法人 中部日本書道会 備考

Main budget table with columns: 科目 (Category), 令和2年度予算額(A) (FY2020 Budget A), 令和元年度予算額(B) (FY2019 Budget B), 増減(A)-(B) (Change), 説明 (Description). Rows include 1. 事業活動収入の部 (Income from business activities) and 2. 事業活動支出の部 (Expenditure from business activities).

Branch-wise budget breakdown table with columns: 支部別内訳 (Branch-wise breakdown), 一宮 (Ichinoe), 半田 (Hirata), 西三河 (Seisaiwa), 東三河 (Toosanwa), 濃飛 (Nunobiki), 北勢 (Kita-sei), 中南勢 (Chunan-sei), 岐阜 (Gifu), 合計 (Total). Rows list various activities like 支部別内訳 (Branch-wise breakdown), 一宮支部 (Ichinoe branch), etc.

科 目	令和2年度 予算額 (A)	令和元年度 予算額 (B)	増 減 (A) - (B)	説 明
② 出 版 費	1304,781	1,100,000	204,781	
1 支 部 報 告 費	207,000	207,000	0	
2 支 部 報 告 費	93,000	93,000	0	
3 支 部 報 告 費	62,000	360,000	△ 160,000	
4 支 部 報 告 費	200,000	5,150,000	△ 1,681,000	
5 支 部 報 告 費	5,318,000	900,000	△ 15,000	
6 支 部 報 告 費	1,950,000	50,000	△ 320,000	
7 支 部 報 告 費	80,000	432,000	△ 10,000	
8 支 部 報 告 費	678,000	688,000	△ 44,000	
9 支 部 報 告 費	3,077,000	3,121,000	△ 127,000	
10 支 部 報 告 費	477,000	604,000	△ 8,000	
11 支 部 報 告 費	633,000	643,000	△ 8,000	
12 支 部 報 告 費	7,045,960	8,505,960	△ 1,456,960	
13 支 部 報 告 費	345,000	339,000	6,000	
14 支 部 報 告 費	4,805,200	3,994,100	811,100	
15 支 部 報 告 費	461,500	403,000	58,500	
16 支 部 報 告 費	7,915,908	7,850,000	65,908	
17 支 部 報 告 費	1,190,460	1,485,100	△ 294,640	
18 支 部 報 告 費	50,000	200,000	△ 150,000	
19 支 部 報 告 費	25,000	25,000	0	
20 支 部 報 告 費	364,400	640,000	△ 4,000	
21 支 部 報 告 費	636,000	18,000	△ 18,000	
22 支 部 報 告 費	950,000	336,000	0	
23 支 部 報 告 費	386,000	336,000	0	
24 支 部 報 告 費	1,409,400	1,890,100	△ 480,700	
25 支 部 報 告 費	136,478	43,430	93,048	
26 支 部 報 告 費	40,741,127	42,084,090	△ 1,342,963	
27 支 部 報 告 費	140,963,118	127,539,076	13,424,042	
28 支 部 報 告 費	-6,141,888	1,239,424	△ 7,381,312	
管 理 費				
1 支 部 報 告 費				
2 支 部 報 告 費				
3 支 部 報 告 費				
4 支 部 報 告 費				
5 支 部 報 告 費				
6 支 部 報 告 費				
7 支 部 報 告 費				
8 支 部 報 告 費				
9 支 部 報 告 費				
10 支 部 報 告 費				
11 支 部 報 告 費				
12 支 部 報 告 費				
13 支 部 報 告 費				
14 支 部 報 告 費				
15 支 部 報 告 費				
16 支 部 報 告 費				
17 支 部 報 告 費				
18 支 部 報 告 費				
19 支 部 報 告 費				
20 支 部 報 告 費				
21 支 部 報 告 費				
22 支 部 報 告 費				
23 支 部 報 告 費				
24 支 部 報 告 費				
25 支 部 報 告 費				
26 支 部 報 告 費				
27 支 部 報 告 費				
28 支 部 報 告 費				
合 計				

備 考	令和2年度 予算額 (A)	令和元年度 予算額 (B)	増 減	説 明
中日展収入内訳				
1 審査会費	13,890,000	13,680,000	210,000	14,000円×1.35点
2 依嘱・無償上出品料	11,580,000	11,940,000	△ 360,000	12,000円×965点
3 一科出品料	6,390,000	6,840,000	△ 450,000	9,000円×710点
4 二科出品料	4,060,000	4,060,000	0	7,000円×580点
5 若年層出品料	2,700,000	2,400,000	300,000	5,000円×540点
6 入場料	228,000	228,000	0	300円×760名
7 入賞日録	56,000	56,000	0	200円×280部
8 中日展告料	1,840,000	1,840,000	0	40,000円×46件
9 協賛店広告料	910,000	910,000	0	35,000円×26件
合 計	43,654,000	43,954,000	△ 300,000	
事業別内訳				
1 講演会費	881,000	962,000	△ 81,000	支部は支部別内訳参照
2 券書展費	1,272,000	1,216,400	55,600	支部別内訳参照
3 支部講習会費	148,000	273,000	△ 125,000	支部別内訳参照
4 支部研究会費	144,200	134,000	10,200	支部別内訳参照
5 支部研修会費	3,627,020	3,491,730	135,290	支部別内訳参照
6 支部選抜展費	258,000	323,000	△ 65,000	支部別内訳参照
7 支部学生展費	5,779,500	5,852,000	△ 72,500	支部別内訳参照
8 支部展費	4,653,150	4,723,200	△ 70,050	支部別内訳参照
9 色紙展費	142,000	139,000	3,000	支部別内訳参照
10 書道振興事業費	460,000	380,000	80,000	本部・一宮支部
11 書道教育研修費	772,500	758,500	14,000	
12 外国研修補助費	100,000	100,000	0	
13 功勞者等顕彰費	230,000	235,000	△ 5,000	
14 書道教育者養成費	100,000	100,000	0	教室看板
15 集総会保険事業費	314,000	254,000	60,000	
16 史跡探訪費	0	500,000	△ 500,000	
17 書道普及事業費	1,845,997	2,271,492	△ 425,495	企画委員会
18 記念事業費	18,250,000	0	18,250,000	世界の書の祭典2020
19 情報提供事業	45,000	268,000	△ 223,000	サライ下運営
20 調査研究費	8,000	30,000	△ 22,000	
21 資料収集費	63,000	60,000	3,000	
22 公開講座費	441,000	534,000	△ 93,000	
23 中日書きぞめ展費	31,553,788	33,311,664	△ 1,757,876	
24 中日書きぞめ展費	5,960,836	6,699,000	△ 738,164	
25 愛の募金費	3,893,000	4,052,000	△ 159,000	
26 会員交流	0	340,000	△ 340,000	
27 本部祝賀会費	16,600,000	16,600,000	0	
28 支部祝賀会費	2,680,000	2,847,000	△ 167,000	支部別内訳参照
合 計	100,221,991	85,454,986	14,767,005	
管理費目別内訳				
1 会 議 費	3,518,360	4,311,000	△ 792,640	本部
(1) 総 会	969,360	1,811,000	△ 841,640	
(2) 理事會	1,209,000	945,000	264,000	
(3) 理事・評議員會	1,340,000	1,490,000	△ 150,000	
(4) 役員選考委員会	0	65,000	△ 65,000	
2 事務局費	28,032,567	26,941,520	1,091,047	本部
3 支部事務所費	3,973,000	4,260,570	△ 287,570	支部別一覽参照
4 全報費	250,000	310,000	△ 60,000	佐花、見舞金等
5 慶弔費	4,845,000	4,787,000	58,000	在4回発行
6 名簿費	1,222,200	1,474,000	△ 1,351,800	令和3・4年度版
合 計	40,741,127	42,084,090	△ 1,342,963	
事業及び管理合計	140,963,118	127,539,076	13,424,042	

(2) 正味財産増減予算書

令和2年度 正味財産増減予算書 (案)

自 令和2年4月1日
至 令和3年3月31日

科 目	令和2年度予算額(A) 円	令和元年度予算額(B) 円	増減(A)-(B) 円	説 明
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産	73,500	73,500	0	運用用利息
② 特定資産	245,000	245,000	0	運用用利息
③ 受取	462,000	462,000	0	理事監事受取会費
1 評議員受取	14,136,000	14,292,000	△156,000	費
2 正議会受取	18,152,000	19,064,000	△912,000	費
3 協賛会受取	2,000,000	2,165,000	△165,000	費
4 協会受取	1,050,000	1,100,000	△50,000	費
5 受取	35,800,000	37,083,000	△1,283,000	費
④ 事業	1,110,000	900,000	210,000	益
1 事業	5,414,500	5,698,000	△283,500	収入
2 支部	5,301,000	5,746,000	△445,000	収入
3 支部	325,000	350,000	△25,000	収入
4 支部	3,097,000	3,012,000	85,000	収入
5 支部	80,000	80,000	0	収入
6 支部	100,000	100,000	0	収入
7 支部	260,000	260,000	0	収入
8 支部	260,000	260,000	0	収入
9 支部	0	300,000	△300,000	収入
10 支部	200,000	300,000	△100,000	収入
11 支部	30,000	30,000	0	収入
12 支部	9,880,000	0	9,880,000	収入
13 支部	43,654,000	43,995,400	△341,400	収入
14 支部	5,500,000	5,700,000	△200,000	収入
15 支部	4,200,000	4,200,000	0	収入
16 支部	16,600,000	16,600,000	0	収入
17 支部	2,501,000	2,671,000	△170,000	収入
⑤ 受取	98,252,500	89,901,000	8,351,500	収入
⑥ 雑収	0	0	0	収入
1 雑収	230	1,000	△770	収入
2 雑収	0	1,050,000	△1,050,000	収入
3 雑収	350,000	330,000	20,000	収入
4 雑収	95,000	95,000	0	収入
5 雑収	5,000	0	5,000	収入
経常	134,821,230	128,778,500	△6,042,730	収入
(2) 経常費用				
1 経常費用	1,304,781	1,100,000	204,781	支出
2 経常費用	207,000	207,000	0	支出
3 経常費用	93,000	93,000	0	支出
4 経常費用	62,000	62,000	0	支出

5 学術顧問報酬	200,000	360,000	△160,000	
6 企画委員を兼務する評議員報酬	623,997	804,492	△180,495	
7 従業員給料手当	5,318,000	5,150,000	168,000	
8 退職金	0	0	0	
9 臨時雇賃	1,428,000	1,726,200	△298,200	
10 報奨金	35,000	50,000	△15,000	
11 報奨金	3,093,308	3,107,000	△13,692	
12 報奨金	9,430,000	7,442,000	1,988,000	
13 報奨金	1,058,644	1,296,500	△237,856	
14 旅費	14,268,500	13,487,000	781,500	
15 食費	6,955,400	6,133,500	821,900	
16 消耗品	1,980,000	1,680,000	300,000	
17 印刷費	16,673,630	17,078,450	△404,820	
18 光熱費	399,000	411,000	△12,000	
19 通信費	6,863,540	7,514,840	△651,300	
20 事務用品	626,040	566,000	60,040	
21 事務用品	7,915,908	7,850,000	65,908	
22 消耗品	205,000	300,000	△95,000	
23 什器	25,000	25,000	0	
24 委託	744,400	744,400	0	
25 委託	0	0	0	
26 委託	7,453,792	3,603,952	3,849,840	
27 委託	3,850,000	3,850,000	0	
28 補助	100,000	118,000	△18,000	
29 補助	950,000	950,000	0	
30 雑費	0	0	0	
31 支部	16,600,000	16,600,000	0	
32 支部	2,680,000	2,847,000	△167,000	
33 支部	0	270,000	△270,000	
34 支部	15,789,000	7,845,000	7,944,000	
35 支部	3,666,400	3,214,100	452,300	
36 支部	352,000	300,000	52,000	
37 支部	136,478	43,430	93,048	
38 支部	2,685,000	2,235,000	450,000	
39 支部	421,847	421,848	△1	
当期	141,384,965	127,960,924	13,424,041	
当期	-6,563,735	817,576	△7,381,311	
(1) 経常外増減の部	0	0	0	
(2) 経常外費用	0	0	0	
当期	0	0	0	
当期	0	0	0	
当期	-6,563,735	817,576	△7,381,311	
当期	117,480,425	115,987,246	1,493,179	
一般正味財産期末	110,916,690	116,804,822	△5,888,132	2019年3月31日残高
一般正味財産期末	110,916,690	116,804,822	△5,888,132	
指定正味財産増減の部	0	0	0	
当期	0	0	0	
指定正味財産期末	0	0	0	
指定正味財産期末	0	0	0	
正味財産期末	110,916,690	116,804,822	△5,888,132	

(3) 事業区分後の正味財産増減予算書

正味財産増減予算書

(損益計算ベースかつ事業別に区分したもので)
令和 2 年 4 月 1 日から令和 3 年 3 月 31 日まで
公益社団法人 中部日本書道会

(単位 円)

科目	公益目的事業会計		その他事業会計 他1	法人会計	合計	備考
	公1	公2				
I 一般正味財産増減の部						
(1) 経常収益	73,500	0	0	0	73,500	
① 基本財産運用益	73,500	0	0	0	73,500	
② 特定資産運用益	245,000	0	0	0	245,000	
③ 受取	17,900,000	0	14,320,000	3,580,000	35,800,000	
理事受取会費	231,000	0	184,800	46,200	462,000	
評議員受取会費	7,068,000	0	5,654,400	1,413,600	14,136,000	
正会員受取会費	9,076,000	0	7,260,800	1,815,200	18,152,000	
準会員受取会費	1,000,000	0	800,000	200,000	2,000,000	
協賛会員受取会費	525,000	0	420,000	105,000	1,050,000	
(4) 事業収益	54,655,000	4,200,000	39,397,500	98,252,500	111,000,000	
寿喜展収入	1,110,000	0	1,110,000	0	2,220,000	
支部学生展収入	5,301,000	0	5,414,500	0	10,715,500	
支部展覧収入	5,301,000	0	5,301,000	0	10,602,000	
支部運技展収入	325,000	0	325,000	0	650,000	
支部研修会収入	3,097,000	0	3,097,000	0	6,194,000	
支部講習会収入	80,000	0	80,000	0	160,000	
普通講習会収入	100,000	0	100,000	0	200,000	
義総合保険料収入	260,000	0	260,000	0	520,000	
会員交流会収入	0	0	0	0	0	
公開講座参加料収入	200,000	0	200,000	0	400,000	
普通教育修習参加料収入	30,000	0	30,000	0	60,000	
周年記念事業収入	9,880,000	0	9,880,000	0	19,760,000	
中日展収入	43,654,000	0	43,654,000	0	87,308,000	
中日書きぞめ展収入	5,500,000	0	5,500,000	0	11,000,000	
褒の募金収入	4,200,000	0	4,200,000	0	8,400,000	
本部祝賀会収入	16,600,000	0	16,600,000	0	33,200,000	
支部祝賀会収入	2,501,000	0	2,501,000	0	5,002,000	
(5) 受取寄付金	0	0	0	0	0	
受取寄付金	0	0	0	0	0	
(6) 雑収	0	0	450,230	230	450,230	
普通預金受取利息	0	0	230	0	230	
宛名不明銀行手数料収入	0	0	0	0	0	
宛名不明広告料収入	350,000	0	350,000	0	700,000	
負担金収入	95,000	0	95,000	0	190,000	
雑収	5,000	0	5,000	0	10,000	
経常収益計	72,873,500	4,200,000	53,717,500	4,030,230	134,821,230	
(2) 経常費用						
理事長報酬			1,304,781	1,304,781	2,609,562	
名誉会長代行報酬			207,000	207,000	414,000	
名誉会長代行報酬			93,000	93,000	186,000	
学術顧問報酬			62,000	62,000	124,000	
学術顧問報酬			200,000	200,000	400,000	
学術顧問報酬			62,399	62,399	124,798	
学術顧問報酬			531,800	531,800	1,063,600	
退職金			0	0	0	
臨時雇賃金			142,800	142,800	285,600	
臨時雇賃金			28,000	28,000	56,000	
福利厚生費			3,500	3,500	7,000	
報償費			3,093,308	3,093,308	6,186,616	
報償費			943,000	943,000	1,886,000	
報償費			529,322	529,322	1,058,644	
旅費交通費			14,268,500	14,268,500	28,537,000	
旅費交通費			1,391,080	1,391,080	2,782,160	
食糧費			396,000	396,000	792,000	
消耗品費			1,980,000	1,980,000	3,960,000	

印刷製本費	8,173,630	500,000	8,000,000	16,673,630
光熱水費	319,200	39,900	39,900	399,000
通信運搬費	6,177,186	6,863,354	6,863,354	13,040,540
手数料	563,436	62,604	62,604	626,040
事務所賃料	6,332,728	791,590	791,590	7,124,318
使役用賃料	5,752,240	1,438,060	1,438,060	7,190,300
消耗什器備品費	164,000	41,000	41,000	205,000
租税公課		25,000	25,000	25,000
負担金		744,400	744,400	744,400
委託料	3,726,896	3,726,896	3,726,896	7,453,792
委託費		3,850,000	3,850,000	7,700,000
補助金		100,000	100,000	200,000
法定福利	760,000	95,000	95,000	855,000
雑支		0	0	0
本部講座会費		16,600,000	16,600,000	33,200,000
支部展覧会費		2,680,000	2,680,000	5,360,000
支部交流会費		0	0	0
対外広報費	7,894,500	7,894,500	7,894,500	15,789,000
会議費	2,199,840	733,280	733,280	2,933,120
印刷費		352,000	352,000	704,000
印刷費		136,478	136,478	272,956
新聞図書費	2,148,000	537,000	537,000	2,685,000
減価償却費	337,479	42,184	42,184	379,663
経常費用計	78,257,775	4,350,000	54,648,155	82,905,775
当期経常増減額	△ 5,384,275	△ 150,000	△ 930,655	△ 5,664,925
(1) 経常外増減の部				
経常外収益				
(2) 経常外費用計				
経常外費用計				
当期経常外増減額				
他会計振替額				
当期一般正味財産増減額	△ 5,384,275	△ 150,000	△ 930,655	△ 5,664,925
一般正味財産期首残高				117,480,425
一般正味財産期末残高				111,815,500
II 指定正味財産増減の部				
一般正味財産への振替額				0
当期指定正味財産増減額				0
指定正味財産期首残高				0
指定正味財産期末残高				0
III 正味財産期末残高				110,916,690

(4) 資金調達及び設備投資の見込みについて

事業年度	自 令和 2 年 4 月 1 日	法人コード	A002493
	至 令和 3 年 3 月 31 日	法人名	公益社団法人 中部日本書道会

(1) 資金調達の見込みについて

借入れの予定	借入先	金額	用途
		なし	

(2) 設備投資の見込みについて

当期中における重要な設備投資（除却又は売却を含む。）の予定の有無を記載し、設備投資の予定がある場合には、その内容を記載してください。

設備投資の予定	なし		
事業番号	設備投資の内容	支出又は収入の予定額	資金調達方法 又は取得資金の用途
		円	

令和元年度 第四回理事会 承認事項 新審査委員会・新正会員の承認

第三号議案

特別昇格者の承認に関する件

公益社団法人中部日本書道会定款第五条一号により、左記の者を依嘱特別昇格者としての承認を求めらる。

この承認は令和二年四月一日付
けとする。

久米 雪葉 西尾 雅子
山口 晶子

第五号議案

正会員の承認に関する件

公益社団法人中部日本書道会定款第五条一号により、左記の者を正会員としての承認を求めらる。

この承認は令和二年四月一日付
けとする。

●第一部(一一四名)

秋元 花雲 浅野 映華
安福 展翠 安福 陽翠
池阪 圭月 石川 涼雨
石原美佐江 五十川朱翠
板垣 海吾 伊藤 祥子
伊藤 翠晨 稲山 沙耶
犬飼 紫華 井上 淑麗
井上 恒雄 井本 千游
上田 陵花 内海 秀香
馬場 春蘭 江崎 美樹
大池 那由 大草 有優
大倉 萌香 大迫 寿星
大村 知郁 小笠原美苑
岡本 清風 奥野 葉月
奥山八重子 小原 春玲

笠松 紫芳 加藤 亜実
加藤 夢捺 門松 静紗
金子 瞳 唐橋 蘭月
神崎 紫陽 儀賀 栄華
木全 春乃 木村 秋波
木本 有理 栗山 万嬉
黒澤百合加 幸村 玉雲
小林 羅文 近藤 鶯雅
近藤 香月 阪田 華香
里中 紅華 佐橋 南美
志岐 拓海 芝 優杏
島田 春海 社本 真依
杉浦とし子 鈴木亜紗花
瀬崎 翠游 千田 光麗
蘭井 優大 高須 紅竹
高橋 美春 高橋 未歩
田口 昂麗 田代ひとみ
田中 彩花 田中 紫芳
田中 青苑 田中 凌山
谷 順子 田宮 佑至
津坂 利佳 寺尾 洌
寺田 雅彦 樋田 美翠
富田 光風 富田 穂月
富田 朝煙 中川 映爽
中村智恵子 名倉 芳美
丹羽 碧洋 野口 純伽
野田 霞月 土師 歌恋
濱野 和江 日置 康苑
廣野 陽風 藤田 愛乃
藤田 孝雲 藤田 琴乃
藤田 美翠 藤原 明子
堀 杏華 松本 萌伶
溝口 千穂 溝口 桜月
宮地八千代 緑川 香玉
村瀬 碧陽

●第二部(十四名)

池田 宮子 乾 乃武子
大河内千晴 大平 貴子
加藤 孝子 岸 美木子
佐藤 美泉 下野 宏江
杉浦 純子 角田登美子
中島 安奈 長谷川智美
平松 明子 吉田 裕子

●第三部(三十三名)

安藤 秀苑 石井 麗
磯野 玲泉 伊藤 歌秀
井浪 茉奈 今枝 順子
今橋 久子 上田 馨星
岡田 真奈 梶 里沙子
神谷 歩夢 北野 愛恵
木全 雪華 國武 寶珠
久保田香穂 小林 晴子
小山 結莉 鈴木 環翠
隅田 玉枝 難波 希静
西村 克美 野村 貞美
橋本 華水 波多野礼香
羽根田由紀江 林 成清
平澤 雲香 船橋明日香
古川 智貴 堀部よしこ
三枝 愛実 森 暁雲
弓 春菜

●第四部(十一名)

大竹 園美 加藤 友子

沓名 典子 榊原 節子
高村 笑代 内藤由美子
中島 玲子 中根 彩雲
橋倉 詠雪 日比野弘心
皆川 光

●第五部(五名)

伊藤 迅亮 河村 一雄
佐藤 敬介 白井 ゆか
高槻 和子

第六号議案

審査会員の承認に関する件

公益社団法人中部日本書道会
覧会開催規定第九条の規定によ
り、左記の者を審査会員とし
ての委嘱の承認を求めらる。

この承認は令和二年四月一日付
けとする。

●二科審査会

第一部(三十名)

阿部 牧香 伊藤 谿石
大場 敏充 河村 喜汀
木澤 麗川 鬼頭 豊寧
工藤 玉州 熊谷 石華
樽林 春翠 古塚 璃幸
近藤 茜畦 酒井 青桐
杉江 花城 田代 青穂
館 由津 鶴見 翠川
勅使河原恵翠 内藤 春翠
西垣 梨雪 野々村宜子
畑 裕子 日比 京馨
深川 碧水 藤原 清泉
古田 清流 前野 樹風
松田 穂輝 松野下華清
水田 美泉 水野名旺子
浅野 多鶴 水野名旺子
大嶋由美子 榊原 春子

前田奈津子 八木 敬子
今井 恭子 大沢 真弓
志村 峯遠 遠 美峰
土川 青翠 馬場 青邨
平松 圭鳳 増田 紅葩

●第四部(二名)

石川 敬子 卯 舟紅

●第五部(三名)

稲垣 泗郷 倉内 翠羽
吉原 愛璃

第七号議案

名誉顧問の承認に関する件

公益社団法人中部日本書道会定款四十二条により、左記の者を名誉顧問として選任する。

この承認は令和二年四月一日付
けとする。

●名誉顧問

内田 優
(東海テレビ放送株式会社
会長就任により)

第八号議案

常任顧問の承認に関する件

公益社団法人中部日本書道会定款四十二条により、左記の者を常任顧問として選任する。

この承認は令和二年四月一日付
けとする。

●常任顧問

安藤 秀川 梶山 夏舟
加藤 子華 近藤 浩乎
早川 泰山

第三十七回 読売書法展
第七十二回 毎日書道展

当 番 審 査 員

第三十七回 読売書法展

◇ 審 査 顧 問 樽 本 樹 邨

◇ 特別賞選考委員 樽 本 樹 邨

◇ 当 番 審 査 員

〈漢字部門〉

伊 藤 昌 石 伊 藤 仙 游

大 池 青 岑 梶 山 夏 舟

酒 井 青 桐 菅 生 攝 山

中 条 彰 山

〈かな部門〉

青 木 美 雲 衣 川 彰 人

山 本 雅 月

〈篆刻部門〉

加 藤 秀 慧 日 比 野 妃 扇

第七十二回 毎日書道展

◇ 会員賞選考委員

〈近代詩文書〉

原 田 凍 谷

◇ 当 番 審 査 員

〈漢字 I 類〉

松 永 清 石

〈漢字 II 類〉

鈴 木 松 厓

〈近代詩文書〉

河 合 玄 鳳

後 藤 啓 太

武 内 峰 敏

原 田 凍 谷

〈大 字 書〉

中 村 立 強

改組新 第六回 日展東海展

中日賞を受賞して

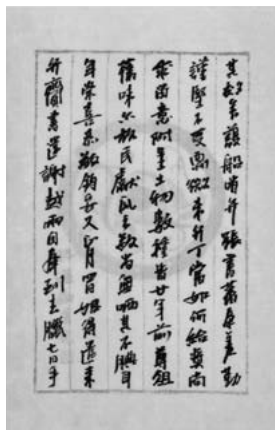
高 桑 嚴 風



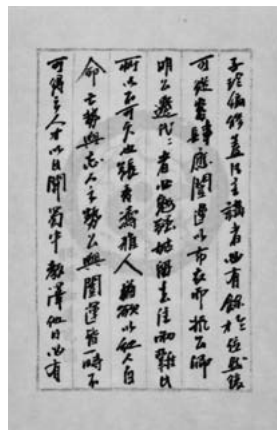
この度は思いがけず「中日賞」の報を頂き驚きと共に感謝の思いで一杯です。未熟な作に身に余る評価を戴き心より御礼申し上げます。これも偏に師をはじめ諸先生方のご温情と諸先輩や同級・後輩に至るまで全ての方々のご恩に心より深く感謝申し上げます。

名蹟と呼ばれる書の中には数多くの手紙が含まれています。今回の作品は、帖仕立てでその手紙の形式で表現しました。宇田紙を用い裏側から四神の瓦当紋を押し、古色趣ある便箋を自ら制作しました。中国清代の楊岷を基調に、文字と余白が響き合うよう、また率意の書として自由になり過ぎず、雅の中にモダンがあるよう留意し一気に書き上げました。

この度の受賞を励みに、今一度心を引き締めて一層精進して参ります。今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。い申し上げます。ありがとうございます。



王 任 秋 文



第70回記念 中日書きぞめ展 受賞の喜び

文部科学大臣賞を受賞して

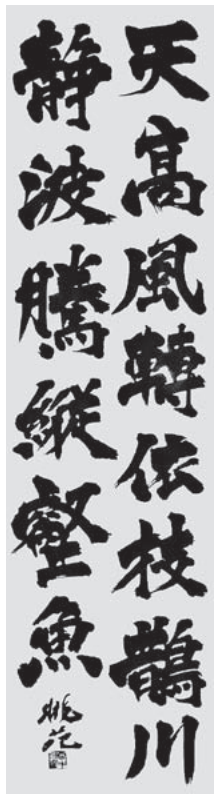
愛知県立岡崎高等学校 一年 鈴木 もも

この度は、文部科学大臣賞という大変名誉ある賞を頂き、本当にありがとうございます。

高校生になり、勉強や部活動で忙しく、書道の練習を満足にできないことに焦りを感じていました。中学生のときは文字数も書体も違う「大人の字」に戸惑い、思うように書けないこともありました。しかし、先生が指導してくださり、また、字がよくなるとどんな小さなことでも褒めてくださったおかげで、書ける、書けない、上手、下手ではなく、自分の字が少しずつ改善され、作品として仕上がっていく過程を楽しいと思うようになりました。

今回、このような素晴らしい賞を頂くことができたのも、書道の新しい魅力に気付くことができたのも、日頃の先生のご指導、尊敬する書道教室の先輩、そして応援してくれる家族の存在があったからです。支えてくださる全ての人に感謝し、この賞に恥じぬよう、これからも精進していきます。

文部科学大臣賞受賞作品



上位三賞賞状

第七十回記念

中日書きぞめ展を終えて

褒賞部長 水野 峯 翠

令和二年三月十五日ナディアパーク三階デザインホールにて授賞式を行う予定で準備を進めてまいりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、予定しておりました授賞式を、取りやめることにいたしました。

なお、賞状賞品の授与につきましては、二月二十五日に推薦し入賞、三月十九日に文部科学大臣賞、理事長賞と今度展示が中止となりましたので、名誉会長賞、理事長賞の作品も共に指導者の先生宛に送付いたしました。

楽しみにしておられた生徒さん、保護者の皆様には申し訳ございません。何卒ご理解頂きますようお願い添えお願い申し上げます。

次年度開催の折には、多くのご出品をお待ちしております。



上位三賞トロフィー

第七十回記念 中日書きぞめ展入賞者

名古屋市立千種中学校 一年 青山いのり



犬山市立犬山南小学校 六年 渡邊園葉



衆議院議長賞

参議院議長賞

文部科学大臣賞

高校一年 鈴木 もも
衆議院議長賞

中学一年 青山いのり
参議院議長賞

小学六年 渡邊 園葉
愛知県知事賞

高校三年 伊藤 颯
中学三年 真野 青空
小学二年 久田 知奈
岐阜県知事賞

高校二年 加古 寅起
中学二年 花田 圭
小学四年 植村 心音
三重県知事賞

中学一年 内田 実玖
小学五年 平本 智嗣
小学三年 中村麻梨奈

名古屋市長賞

高校二年 高松 一茶
中学二年 藤村 真央
小学六年 加藤 綾奈

高校一年 永田 彩乃
愛知県議会議長賞

中学二年 丹羽美紗姫
岐阜県議会議長賞

小学四年 古川 紗妃
三重県議会議長賞

高校三年 石川 朋佳
中学三年 笠田 倫世
小学五年 玉木 真名
名古屋教育委員会賞

中学二年 佐野明日葉
小学六年 鈴木 颯菜
富田 琉斗

岐阜県教育委員会賞

高校一年 山本 悠菜
中学一年 近藤 愛梨
小学三年 横江 妃莉

高校二年 鈴木亜紗花
中学三年 辻 美咲
小学五年 橋本 藍

高校一年 立藤 愛唯
中学二年 大久さくら
小学六年 松野 莉子

高校三年 田宮 佑至
小学三年 對島 綾音

高校二年 高田 夏朋
小学四年 中村 彩花
古田 紗菜

中日書道会賞

高校二年 前田 奈摘
高校一年 春日 愛実
中学三年 鷲見美也妃

中学二年 石川 諒一
丹羽 泉乃

小学一年 稲垣 心葉
小学六年 関戸 亜莉

中日新聞社賞

小学五年 鬼頭 愛奈
高校二年 阪上 珠基

高校一年 西原 万里
小学三年 伊藤 寧音

小学六年 小栗 卓真
小学五年 山口 翔大

小学一年 井上 詩織
小学六年 徳川明日香

小学一年 石黒 凛佳
小学六年 岡島 実祐

小学六年 鈴木 明依
小学五年 佐藤 帆風

小学四年 犬飼 美音
小学三年 小村 彩美

小学二年 磯部 裕雄
小学一年 波多野結万

小学六年 野村 和花

CBCCテレビ賞

小学五年 樋口 咲那
高校二年 國枝 夏渚
中学三年 田宮 朱梨

小学二年 藤本 晃平

小学五年 市岡 都和
小学六年 太田 美住

小学二年 大藪 来幸
小学五年 篠畑 杏奈

小学二年 清水ゆりあ
小学五年 高谷允佐年

小学二年 長尾 侖佳
小学五年 中西 真尋

小学二年 野口 瑞葵
小学五年 林越 智奏

小学二年 深堀 侑里
小学五年 森 聡士

小学二年 伊藤 美奈
小学五年 川瀬 愛加

小学二年 須田舞菜美
小学五年 西部 日菜

小学二年 水谷 望来
小学五年 山本 寛之

小学二年 浅井 暖栳
小学五年 伊藤 蒼夏

小学二年 稲向 彩
小学五年 岩瀬 左帆

小学二年 岩谷 謙汰
小学五年 落合和花子

小学二年 藤墳 奈実
小学六年 竹中小都羽

小学五年 谷川 皐月
小学二年 井上 結来

小学五年 成木 陽香
小学二年 鈴木ともか

小学五年 三輪莉紗子
小学二年 渡邊 琴弓

小学五年 石垣 青葉
小学二年 石倉 麻衣

小学五年 川畑 奈央
小学二年 木村 真子

小学五年 近藤 花音
小学二年 松浦 琉依

小学五年 山田 結月
小学二年 関戸 理伊

小学五年 寺本 悠真
小学二年 三浦 悠人

小学五年 村上 千歩
小学二年 鈴木 琉末

小学五年 難波あやね
小学二年 小川心々菜

小学五年 永原 聖真
小学二年 林 陽菜里

小学五年 理事賞
小学二年 井田 遥

小学五年 二宮ひかる
小学二年 梅村 美香

小学五年 大谷 綾香
小学二年 高浜 倫名

小学五年 後藤友理亜

小学二年 谷口 優奈

小学五年 西垣 朱梨

小学二年 面村 文乃

小学五年 藤山 晴貴

小学二年 藤山 晴貴

小学五年 藤山 晴貴

小学二年 藤山 晴貴

小学五年 藤山 晴貴

小学二年 藤山 晴貴

小学五年 藤山 晴貴

小学二年 藤山 晴貴

小学五年 藤山 晴貴

小学二年 藤山 晴貴

小学五年 藤山 晴貴

愛知県知事賞 高三 伊藤 颯

魏靈藏 夫靈跡遠必表光大之迹玄功既成之靈
 釋迦像 希世之作自莫林改無大十懷擬之悲慧
 之應過遠得空以刑像更置下代故空願作
 薛法船 銘鏡鏡靈藏河東薛法 社堂其法在八幡宮也

愛知県知事賞 中三 真野 青空

瑞雲鶴舞

中三 真野 青空

愛知県知事賞 小二 久田 知奈

ともたち

小二 久田 知奈

岐阜県知事賞 高二 加古 寅起

坊前坊主を南無行僧長を侍唐僧長
 空楊香堂を花老僧を無名法師を無名本
 坊前坊主を執持仙人法堂前編版空也。

岐阜県知事賞 中二 花田 圭

夢の絵巻

中二 花田 圭

岐阜県知事賞 小四 植村 心音

大きな夢

四年 植村 心音

三重県知事賞 中一 内田 実玖

独創思考

中一 内田 実玖

三重県知事賞 小五 平本 智嗣

新春初光

五年 平本 智嗣

三重県知事賞 小三 中村麻梨奈

はるの光

三年 中村麻梨奈

名古屋市長賞 高二 高松 一茶

山嶽山嶽海詠落
 先練穂怒疾 一茶詠

名古屋市長賞 中二 藤村 真央

白鶴舞姿

中二 藤村 真央

名古屋市長賞 小六 加藤 綾奈

雄飛の年

六年 加藤 綾奈

愛知県議会議員賞 高一 永田 彩乃

道徳ある名漢字書道は自ら心を養う
 分譲動員能得るは来世を導く
 別業は 我れは 道徳を教むるに在

岐阜県議会議員賞 中三 丹羽美紗姫

龍池望望五雲

中三 丹羽美紗姫

三重県議会議員賞 小四 古川 紗妃

日本の子

小四 古川 紗妃

名古屋市長賞 高三 石川 朋佳

聲歌下場
 主吟馬五
 始列在頭
 客笑舉送
 京江酒客
 發漫欲楓
 尋月飲帶
 敷忽無歌
 閣間管芒
 周水絃秋
 上醉弱
 既京主
 醫成人

名古屋市長賞 中三 笹田 倫世

縦暴易亂

中三 笹田 倫世

名古屋市長賞 小五 玉木 真名

青雲の志

五年 玉木 真名

愛知県教育委員会賞 中二 佐野明日葉

龍翔雄飛

中二 佐野明日葉

愛知県教育委員会賞 中二 鈴木 颯菜

伝統の美

中二 鈴木 颯菜

愛知県教育委員会賞 小六 富田 琉斗

富士雄姿

六年 富田 琉斗

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|-----|----|-----|----|----|-----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 寺澤 | 小山 | 金子 | 奥田 | 大脇 | 大西 | 大石 | 石黒 | 生田 | 飯沼 | 天野 | 浅野 | 浅井 | 吉光 | 横井 | 矢田 | 村上 | 堀部 | 細野 | 逸見 | 久田 | 波田 | 田中 | 鈴木 | 杉原 | 杉方 | 塩満 | 小松 | 草野 | 北村 | 柿本 | 山田 | 村瀬 | 村瀬 | 水谷 | 藤井 | 熊谷 | 上村 | 伊東 | 高橋 | 水野 |
| 結羽 | 芽生 | 陽菜 | 彩那 | 桃楓 | 愛理 | 咲希 | 真子 | 友那 | 圭 | 龍三郎 | 優果 | 沙織 | 元 | 琴美 | 瑞希 | 翠 | 謙斗 | 瑞斗 | 琴子 | 凜 | 董花 | 美穂 | 彩葉 | 渚彩 | 凜香 | 舞姫 | 美子 | 真桜 | 美優 | 名緒 | 真子 | 眞子 | 眞子 | 知夏 | 朋花 | 愛 | 葵 | 優奈 | 早織 | 里砂 |
| 松本 | 中根 | 鶴見 | 鈴木 | 清水 | 梶浦 | 岩田 | 稲川 | 山 | 諸戸 | 東 | 原田 | 中西 | 竹内 | 高野 | 堀田 | 甲斐 | 小野 | 岩田 | 今神 | 山口 | 柳 | 松島 | 東 | 中村 | 中野 | 関 | 篠田 | 川本 | 亀井 | 小川 | 伊藤 | 市川 | 安達 | 伊藤 | 宮下 | 松村 | 藤井 | 原田 | | |
| 麻那 | 知咲 | あゆら | 慶太 | 聡真 | 愛未 | 梨杏 | 英里 | 理瑚 | 瑠香 | 隼史 | 桃佳 | 優稀 | 絢香 | 和泉 | 真衣香 | 衣織 | 美結 | 実華 | 由捺 | 沙希 | 幸来 | 幸来 | 珠来 | 里咲 | 陸翔 | 瑞葉 | ノア | 京子 | 眞矢 | 眞矢 | 創太 | 夕貴 | 眞矢 | 心寧 | 知宥 | 愛珠 | 和奏 | | | |
| 山口 | 村田 | 村田 | 峯 | 堀口 | 廣瀬 | 林 | 面出 | 中島 | 中川 | 寺尾 | 田中 | 相馬 | 佐藤 | 佐藤 | 坂井 | 加藤 | 奥村 | 奥井 | 大矢 | 伊藤 | 石原 | 石原 | 安藤 | 山下 | 二村 | 谷本 | 田尻 | 川本 | 亀井 | 小川 | 伊藤 | 市川 | 安達 | 伊藤 | 宮下 | 松村 | 藤井 | 原田 | | |
| 航汰朗 | 万桜 | 景星 | 舞凜 | 凜乃 | 早理 | 里佳 | 光希 | 京華 | 輝 | あかね | 朋花 | 楓乃 | まつり | 舞奈 | 綾音 | 健太 | 拓真 | 翔太郎 | 夢華 | 杏馬 | 奈都音 | 奈都音 | 有里奈 | 花歩 | 侑璃 | 遥菜 | 夏音 | 宣道 | 浩輔 | 青木 | 高松 | 高松 | 瑞莉 | 高野 | 鈴木 | 山本 | 宮下 | 松村 | 藤井 | 原田 |

岐阜県教育委員会賞 高一 山本 悠菜
別去西江上江瀨宿短亭理天竺生
白息子岫皆青寺内禁修篋人前
表歲品多時能亦大官百次指此葉也

岐阜県教育委員会賞 中一 近藤 愛梨
瑞雲富士嶺
中一 近藤 愛梨

岐阜県教育委員会賞 小三 横江 妃莉
お正月
三 横江 妃莉

三重県教育委員会賞 高二 鈴木亜紗花
遯訪故志商最慎艾王敵王平芬楓民之
要今想高年撫育解黨以家錢糴米東賜
痒會大女挑琴苔合七首藥神明宵

三重県教育委員会賞 中三 辻 美咲
春風生福寿
中三 辻 美咲

三重県教育委員会賞 小五 橋本 藍
富士の雪
五年 橋本 藍

名古屋市教育委員会賞 高一 立藤 愛唯
名古屋市の風景

名古屋市教育委員会賞 中二 大久さくら
強い意志
篠田中二 大久 さくら

名古屋市教育委員会賞 小六 松野 莉子
春風青雲
六年 松野 莉子

記念賞 高三 田宮 佑至
春風青雲

記念賞 高三 對島 綾音
舳舻千里旌旗蔽空醜酒
臨江橫槊賦固一世之雄也

記念賞 高二 高田 夏朋
三月春風生福寿

記念賞 高二 中村 彩花
春風生福寿

記念賞 高二 古田 紗菜
正義普照

記念賞 高二 水野 実咲
五更曉色侵書幌半
夜寒聲落畫簷

記念賞 高二 吉川 雲母
昔花世界如春夢烟
与橋臺似畫圖

記念賞 高一 小瀬 由佳
天漢三年十月遂長遠
除居平望莫十石之

記念賞 高一 砂田 奈瑠
不須而戴之是用
有興道之會僕射

記念賞 高一 吉本 有里
每慰人心方期截殺何
圍逆賊聞聲稱兵

記念賞 中三 渡辺 夕月
友愛の精神

記念賞 中二 池谷 倫莉
感謝する心

- 高校一年
浅井 萌花
伊藤 有澄
伊藤 凛々華
今枝 真央
太田 幸希
岡田 宗万
近藤 実優
酒井 結衣
芝波 凜花
杉本 弥奈美
鈴木 琴弓
清野 みのり
高尾 凜
長嶺 希偉斗
戸田 真菜華
中嶋 若捺
深瀬 ひとみ
前河 愛実
水野 進拓
三輪 天音
横田 舞
池戸 美月
井戸 彩里衣
伊藤 優
稲田 夏生
井深 萌
今井 美穂
牛丸 祐子
内田 壮祐
太田 想人
大嶽 じず香
大橋 綾乃
蔭山 日菜
加藤 伊織
加藤 真白
亀山 昂裕
木村 歌暖
倉知 優奈
小椋 奏音
酒井 早季
酒井 琉希
- 高校二年
静間 ほの美
島澤 美優
白橋 和香
杉本 創哉
杉本 真帆
鈴木 ののか
鈴木 万結
關 優萌
高田 一成
継田 悠乃
恒川 奈弓
福原 桜子
藤村 ひかる
古谷 美結
水野 夏実
水野 美穂
中野 文音
村上 涼菜
森内 愛奈
門前 美佑
安室 咲希
柳澤 心那
山田 沙輝
渡辺 萌乃
井澤 美波
石原 遙佳
市川 香澄
市川 笑姫
井手 歩実
伊藤 詩梨
伊藤 大貴
妹尾 英恒
岩下 琴音
宇田 恵佳
上田 修大
梅田 紗弥
遠藤 愛実
太田 蒼唯
岡井 美紀
小笠原 咲姫
岡部 陽菜
小本 曾花
- 高校三年
加藤 里咲
河合 美咲
河出 理央
木村 茜寧
黒河内 結菜
小瀬 大輝
後藤 明日花
後藤 汐音
小早川 真央
堺 穂乃花
酒井 蘭名
佐藤 亜衣
柴垣 結菜
城 有里奈
末弘 晏理
杉村 綾音
鈴木 花歩
鈴木 悠生
瀨田 夏鈴
田中 涼那
谷川 穂乃佳
塚嶋 流菜
津志 桃愛
中野 夏紀
野村 萌絵
服部 百合菜
彦坂 優咲
平井 桜成
平野 太一
福澤 要
伏見 紗英
堀川 彩羽
前田 愛菜
牧野 友奏
松原 有瞳
円山 花央
武藤 久美
山田 ひなた
山田 ひなた
弓矢 真夕
吉田 海緒
吉本 晴香

記念賞 中二 蟹江 彩葉
伝統の美
 中二 蟹江 彩葉

記念賞 中二 河瀬歩乃果
新春福祿寿
 中二 河瀬歩乃果

記念賞 中二 平澤 孝晴
龍池望雲
 中二 平澤 孝晴

記念賞 中一 小鹿 友菜
光風動春
 中一 小鹿 友菜

記念賞 中一 須田 樹
叡智結晶
 中一 須田 樹

記念賞 小六 杉村 蓮里
和顔愛語
 小六 杉村 蓮里

記念賞 小六 杉本 由梨
大空新陽
 小六 杉本 由梨

記念賞 小五 服部 由愛
希望の春
 小五 服部 由愛

記念賞 小四 松浦 杏実
平和春光
 小四 松浦 杏実

記念賞 小四 山口 結愛
永遠の友
 小四 山口 結愛

中日書道会賞 高二 前田 奈摘
一筆一画 心を通ずる
 高二 前田 奈摘

中日書道会賞 高一 春日 愛実
太和九年十一月
 高一 春日 愛実

中日書道会賞 中三 鷺見美也妃
恵風和暢
 中三 鷺見美也妃

中日書道会賞 中三 竹本 英那
理想実現
 中三 竹本 英那

- 米倉 彰吾 脇阪日向子 〇中学一年 青山 凌大 石原由可利 井手 瑞穂 伊藤 美嬉 犬飼 和希 浦元 咲羽 榎 かなで 榎本 奏 大島 彬徳 太田 優那 岡田 星華 春日 清芳 門脇 茉莉 河合 俊亮 川島 智貴 鬼塚 莉央 坂井 秀太 澤崎 奈美 島田 遥斗 杉浦 康太 杉浦 瑞彩 杉浦 美咲 高取 志歩 高木 優音 高橋 幸迦 谷川原 采音 谷口 翠 鐵具 愛華 内藤 千歳 中村 真緒 南部 未桜 西 姫七 丹羽 宏明 野村 彩湖 波多野 熙秀 早川 実那 早川 悠里菜
- 原 優奈 堀 彩乃 前田 麻緒 松野 侑生 真野 蓮音 三宅 理央 向澤 実優 望月 悠寿 山本 悠苗 渡邊 結芽 〇小学六年 東山 統哉 足立 暖 安達 陽色 阿部 琴美 新井本 佳和 明保 希姫 飯田 美沙 石黒 比菜 伊藤 比奈 伊奈 杏紗 稲垣 瑠美 井上 茉音 今井 零月 岩間 有沙 江川 琥太郎 江口 美優 大澤 真歩 太田 智尋 大西 叶莉 大野 史華 大場 葉月 大橋 周晃 梶浦 朔 梶原 煌己 加原 知輝 鬼頭 知輝 久野 奈那子 倉田 みのり 交告 朱莉 幸田 花梨 小坂 幸慈 後藤 健心 小森 杏珠
- 佐宗 修弥 佐藤 茉依 佐藤 優奈 佐藤 苑華 佐橋 裕哉 杉本 結美子 鈴木 さくら 多田 結美子 田中 葵 長江 柚子 長坂 泰良 中村 彩乃 中村 優子 布目 紗也 長谷川 真衣 早川 茉那 平川 里桜 廣永 櫻子 藤田 日菜子 真野 航輔 水野 柚月 宮田 響 村瀬 媛香 村原 菜乃 森崎 純花 森崎 純花 八卷 里咲 山口 茉莉花 山口 小桃 山城 璃来 山田 柊 山本 実和 山本 結愛 横井 彩花 横山 陽菜 鷺野 眞歩 渡邊 葵 渡邊 葉 〇小学五年 青木 萌々花 伊藤 愛莉 浦田 琉花 大里 瑛子 岡崎 凜 尾関 牙耶
- 梶田 和 加野 葵子 川口 優悟 窪田 優衣 小島 佑奈 佐藤 心美 杉山 桃萌 高田 紗椰 高浪 叶愛 高橋 沙和 高橋 美音 瀧日 彩愛 龍井 美仁依 塚原 美咲 成田 柚月 橋本 紗奈 藤本 友里 古川 直生 文珠 ゆうひ 升本 佳那 卷野 詩乃 水谷 真理 三田 啓太郎 森岡 心暖 森島 萌結 山下 さくら 山田 高太朗 渡邊 菜々葉 〇小学四年 猪池 舞 植田 美音 片岡 桃子 北村 翔大 小池 美心 榊原 湖子 佐々木 果梨 杉原 彩良 曾我 智百合 高橋 直巳 高松 花怜 武山 明樺 田中 里奈 沼野 紗季
- 肥後 光咲 藤居 里香 松岡 莉子 宮城 杏奈 山下 裳子 山下 理緒菜 山田 晴士 〇小学三年 秋好 虎太郎 今輩 倍響 浦 愛理 鎌田 未奈萌 小島 愛華 小島 かんな 五藤 もも香 杉浦 耕一朗 戸張 七葉 豊島 愛生 前田 花歩 〇小学二年 板津 莉子 小柳 津実桜 加藤 愛理 川畑 美遥 志村 沙那 松浦 咲帆 小島 悠花 酒井 悠雪 関戸 偉更 〇幼年 越野 翔馬 荒井 唯花 石川 朱里 稲垣 萌美 加藤 紀夏 小島 大輝 高木 春果 齊藤 陽基 田代 鮎美 平子 綾音
- 浅井 暖登 安里 幸代 石川 楓 伊藤 萌絵 榎倉 彩乃 勝水 維伽 加藤 由香 神谷 凜朱 國分 彩羽 後藤 菜の子 酒井 凜 佐原 葵 白木 友梨 鈴木 あかね 千田 悠夏 竹村 英恵 杏脱 祥子 原 楓 飯野 恵美 日高 綺音 藤戸 祐成 星野 ひかる 松尾 風輝 松尾 俊佑 水野 陽貴 山田 敬介 吉田 空翔 青山 玲来 浅野 七瀬 飯西 司 伊藤 千紘 犬飼 菜月 卯之原 龍嗣 岡田 大知 小澤 知生 加藤 陽菜 川井 美侑 河合 利菜 川上 花暢 久野 日菜子 小澤 天彩

中日書道会賞 中二 石川 諒一
 輝く生命
二年 石川 諒一

中日書道会賞 中二 丹羽 泉乃
 博愛精神
中二 丹羽 泉乃

中日書道会賞 中一 稲垣 心葉
 龍池望五雲
中一 稲垣 心葉

中日書道会賞 小六 関戸 亜莉
 初日の出
六年 関戸 亜莉

中日書道会賞 小六 菱田 柊羽
 観察記録
六年 菱田 柊羽

中日書道会賞 小五 鬼頭 愛奈
 正月の朝
五年 鬼頭 愛奈

中日新聞社賞 高二 阪上 珠基
 〇初学字街頭看鳥把戲日頭雲鳥鳥大
 内徑雲雲繞柳手平閑扇之類亦有不鼓
 三不志者稍長眼麟幼果然手腹 李珠基

中日新聞社賞 高二 西原 万里
 〇親善を信じて修業を成す
 孝婦を親に侍りて著るは 孝のありは
 母を侍りて著るは 孝のありは

中日新聞社賞 高一 土田 明穂
 〇春の光景
 春の光景

中日新聞社賞 中三 伊藤 寧音
 黄鳥話春深
中三 伊藤 寧音

中日新聞社賞 中三 小栗 卓真
 夢の実現
中三 小栗 卓真

中日新聞社賞 中三 切手 一心
 富士山雪景色
中三 切手 一心

中日新聞社賞 中三 山口 翔大
 百花繚乱
中三 山口 翔大

中日新聞社賞 中二 井上 詩織
 慈善事業
二年 井上 詩織

- 後藤 未来 加藤 希美 山口 華 能州 慧
 杉本 百々香 加藤 姫歌 山中 菜月美 野口 周都
 田中 創也 川嶋 康生 山中 真心 池田 月穂
 田名瀬 友恵 河村 優花 山本 士朗 板野 麗月
 鶴田 真子 北田 莉々 吉田 真悠 市村 知也
 寺澤 一葉 釘本 朱音 吉原 晴菜 伊藤 美結
 中村 光優 國塩 優莉乃 米田 愛 伊藤 美杏
 西川 結唯 汲田 愛理 鷺見 優華 伊藤 美結
 西本 結唯 栗本 まや 秋山 知彩 伊藤 美杏
 長谷川 梨核 後藤 美羽 浅野 真矢 伊藤 美杏
 服部 心音 佐藤 大誠 荒川 晃太郎 伊藤 美杏
 林 哲矢 佐原 主馬 池戸 七和 伊藤 美杏
 平野 愛美 澤村 伊織 石黒 純羽 伊藤 美杏
 平本 啓恭 下川 萌景 磯田 煌貴 伊藤 美杏
 間瀬 ひなの 安田 望叶 山田 安純 伊藤 美杏
 山田 安純 山ノ内 くれは 鈴木 杏梨 伊藤 美杏
 横井 悠乃 高清水 あずさ 伊藤 美杏
 吉川 未之里 鷹見 秀真 今泉 陽香 伊藤 美杏
 吉丸 功希 竹中 里帆 今治 帆香 伊藤 美杏
 和田 萌愛 田中 捺希 岩橋 美奈 伊藤 美杏
 〇 中学三年 辻 永恋 植田 愛音 伊藤 美杏
 浅見 真帆 新妻 ほんの華 宇佐見 啓介 伊藤 美杏
 安達 万結 西山 夏野 江崎 莉音 伊藤 美杏
 阿保 彩巴 野間 菜摘 大内 美侑 伊藤 美杏
 荒井 颯斗 長谷川 実咲 大西 由莉 伊藤 美杏
 安形 天華 林 真帆 小笠原 萌々 伊藤 美杏
 家田 藍子 久木 来桜 岡本 優 伊藤 美杏
 家田 愛理 久本 明日菜 小川 祐梨花 伊藤 美杏
 池内 聖和 藤田 若菜 小野 紗京 伊藤 美杏
 磯崎 爽葉 藤成 環 梶浦 真由 伊藤 美杏
 磯谷 奈央 堀田 青花 加藤 咲奈 伊藤 美杏
 一ノ木 雅 松尾 京香 加藤 志莉 伊藤 美杏
 伊藤 新菜 水野 遥月 加藤 志麻 伊藤 美杏
 井上 琴理 皆本 愛美 金子 さくら 伊藤 美杏
 岩田 せりか 向井 紀子 賀茂 瀬里菜 伊藤 美杏
 岩田 尊斗 村井 香月 河合 美輝 伊藤 美杏
 宇佐美 結斗 森 楓月 川合 一輝 伊藤 美杏
 天津 ころか 森 美早季 河合 美羽 伊藤 美杏
 大山 そよか 森嶋 心海 菊池 結衣 伊藤 美杏
 岡田 泰征 諸戸 有紗 鬼頭 明日香 伊藤 美杏
 甲斐 璃乃花 山口 恭平 鬼頭 舞衣 伊藤 美杏

中日新聞社賞 小六 佐藤 帆風
 六年 初日の出

中日新聞社賞 中一 鈴木 明依
 中一 快速列車

中日新聞社賞 中一 岡島 実祐
 中一 環境を守る

中日新聞社賞 中一 石黒 由萌
 中一 風雲の志

中日新聞社賞 中二 結城 凜佳
 中二 龍池望五雲

中日新聞社賞 中二 徳川明日香
 中二 四望の春景

中日新聞社賞 中二 小林 美優
 中二 瑞雲富士嶺

東海テレビ賞 高一 勝野 晴喜
 金暉誕照於聖歲現
 世眷属萬福雲歸

東海テレビ賞 高二 尾神 圭祐
 高二 切磋琢磨

中日新聞社賞 小四 波多野結万
 四年 はるの光

中日新聞社賞 小四 磯部 裕雄
 四年 はるの光

中日新聞社賞 小五 小村 彩美
 五年 登頂成功

中日新聞社賞 小五 犬飼 美音
 上社小五年 青雲大志

中日新聞社賞 小六 林 小葉
 六年 未来の夢

東海テレビ賞 小六 野村 和花
 六年 新年初夢

東海テレビ賞 中一 中村 葵
 中一 記録達成

東海テレビ賞 中一 内村 彩花
 一年 強い信念

東海テレビ賞 中二 田下 葵
 中二 龍翔雲起

東海テレビ賞 中二 安立 嬉子
 中二 四海生春風

東海テレビ賞 中三 佐藤いすず
 中三 弥勒像一區

東海テレビ賞 中三 小坂浩太郎
 中三 龍池望五雲

元永菜月美	村上季里	宮田咲希	宮川莉々菜	水野夢実菜	水野智仁	水谷来未	水谷空	水口ひなた	松本真夢	松原ひなた	前田紗希	堀池公月	藤木みのり	藤井咲帆	福屋りるは	福岡莉沙	福岡紗羽	平山園子	平松優希	東雅宗	早崎理沙	花木小春	野崎祐生	西村侑芽	西山志帆	中山陽悦	中村宥紀子	中村比奈	中塚響乃	仲田沙絵	戸谷心咲	徳永翔乙	戸口ゆず菜	種部遥	田中未衣菜	田中誠人	田島佑奈	竹中心優	高田深菜	高田菜摘	宗宮杏奈	
川原榛名	川上優空	金田奈々	角田心愛	加藤陽華	寛侑南	荻谷侑南	甲斐田寧々	小野由愛	小野蓮	小野由愛	奥村乃愛	奥村夏芽	岡恵利花	大脇奏奈	大脇美菜	太田和希	今井美和	今井咲良	石川晴子	石川詩子	飯久保結衣	有鹿悠結	天野紗綾	阿部聖矢	朝井寧々	青木優芽	中山陽悦	青木優芽	渡辺詩	吉宮凜	吉田芽生	横田和花乃	山田乃愛	山田紗楽	山下小百合	山内陽菜	安田結娃	安田光来	森本琉夢	森田菜摘	森島花音	吉野北村
沼澤汐音	西山優佳	西野小夏	西久保陽香	中村夏綺	中野千彩	中島壮一	中川阿華里	永井光莉	鳥羽陽菜乃	寺本康平	寺崎美桜	土本桃花	谷紗夕菜	田中あさか	立石結衣	田崎穂花	竹谷瑠莉	武田笑瑠	高橋亮祐	高橋梨莉	高野珠莉	大崎一護	世良千陽	杉田匠悟	杉浦匠悟	社本留菜	島山友菜	鳥原千亜理	澤田実苗	佐藤幸奈	佐藤楓花	笹谷玲月	坂ことは	齊藤ちな	粉川乙芭	小島菜帆	草薙菜帆	木本菜季	木本沙季	木全花鈴	北村崇典	

東海テレビ賞 小五 樋口 咲那

山の初光
樋口 咲那

CBCテレビ賞 高二 國枝 夏渚

情の底 善美子
巳姫 贈 賛 善 大夫

CBCテレビ賞 中三 田宮 朱梨

江山景物新
中三 田宮 朱梨

CBCテレビ賞 中三 林 由依

雲龍遠飛駕
中三 林 由依

CBCテレビ賞 中三 藤本 晃平

若人雄飛
若崎 中三年 藤本 晃平

CBCテレビ賞 中二 藤墳 奈実

恵風和暢
中二 藤墳 奈実

CBCテレビ賞 中一 竹中 小都羽

平穩無事
中一 竹中 小都羽

CBCテレビ賞 小六 谷川 皐月

世界平和
六年 谷川 皐月

CBCテレビ賞 小五 井上 結来

春の牧場
小五 井上 結来

CBCテレビ賞 小五 成木 陽香

豊かな心
五年 成木 陽香

CBCテレビ賞 小二 鈴木 ともか

はつゆめ
小二 鈴木 ともか

野田 夢羽

野々山 心桜
松原 光希
松山 琳音
宮田 祐樹
村上 花
村上 桃子
村上 彩奈
村山 彩奈
持田 笑菜
森 健太
森 菜歩
森田 菜月
矢川 菜萌
安良 香里
吉田 敢紀
吉田 大輝
判治 徹哉
榎戸 憲慎

野田 夢羽
阿部 ひなた
石寄 桃子
石島 妃菜
磯部 文月
伊藤 瑠美
稲垣 日彩
岩瀬 百合子
浦上 莉緒
遠藤 香南
遠藤 紗穂
大江 綾瞳
大杉 樹
太田 梨桜
大谷 奏芽
大塚 孟
小笠原 幸希

野田 夢羽
水谷 和香子
水野 未花
宮川 結羽
宮崎 蓮士
宮崎 麻央
武藤 楓
武藤 楓
望月 美弥香
森 彩葉
山中 和侑
山中 咲奈
山本 悠人
吉田 千華
脇阪 希明
脇阪 明莉

野田 夢羽
鈴木 綾夏
鈴木 楓果
高橋 伸幸
谷口 可歩
谷口 楓
谷口 楓
武藤 楓
武藤 楓
望月 美弥香
森 彩葉
山中 和侑
山中 咲奈
山本 悠人
吉田 千華
脇阪 希明
脇阪 明莉

小田 穂花

小野 舞
榎森 舞
加藤 心春
加藤 心春
河合 凛空
河合 凛空
望月 美弥香
森 彩葉
山中 和侑
山中 咲奈
山本 悠人
吉田 千華
脇阪 希明
脇阪 明莉

小田 穂花
水谷 和香子
水野 未花
宮川 結羽
宮崎 蓮士
宮崎 麻央
武藤 楓
武藤 楓
望月 美弥香
森 彩葉
山中 和侑
山中 咲奈
山本 悠人
吉田 千華
脇阪 希明
脇阪 明莉

小田 穂花
水谷 和香子
水野 未花
宮川 結羽
宮崎 蓮士
宮崎 麻央
武藤 楓
武藤 楓
望月 美弥香
森 彩葉
山中 和侑
山中 咲奈
山本 悠人
吉田 千華
脇阪 希明
脇阪 明莉

小田 穂花
水谷 和香子
水野 未花
宮川 結羽
宮崎 蓮士
宮崎 麻央
武藤 楓
武藤 楓
望月 美弥香
森 彩葉
山中 和侑
山中 咲奈
山本 悠人
吉田 千華
脇阪 希明
脇阪 明莉

小田 穂花
水谷 和香子
水野 未花
宮川 結羽
宮崎 蓮士
宮崎 麻央
武藤 楓
武藤 楓
望月 美弥香
森 彩葉
山中 和侑
山中 咲奈
山本 悠人
吉田 千華
脇阪 希明
脇阪 明莉

小田 穂花
水谷 和香子
水野 未花
宮川 結羽
宮崎 蓮士
宮崎 麻央
武藤 楓
武藤 楓
望月 美弥香
森 彩葉
山中 和侑
山中 咲奈
山本 悠人
吉田 千華
脇阪 希明
脇阪 明莉

小田 穂花
水谷 和香子
水野 未花
宮川 結羽
宮崎 蓮士
宮崎 麻央
武藤 楓
武藤 楓
望月 美弥香
森 彩葉
山中 和侑
山中 咲奈
山本 悠人
吉田 千華
脇阪 希明
脇阪 明莉

小田 穂花
水谷 和香子
水野 未花
宮川 結羽
宮崎 蓮士
宮崎 麻央
武藤 楓
武藤 楓
望月 美弥香
森 彩葉
山中 和侑
山中 咲奈
山本 悠人
吉田 千華
脇阪 希明
脇阪 明莉

小田 穂花
水谷 和香子
水野 未花
宮川 結羽
宮崎 蓮士
宮崎 麻央
武藤 楓
武藤 楓
望月 美弥香
森 彩葉
山中 和侑
山中 咲奈
山本 悠人
吉田 千華
脇阪 希明
脇阪 明莉

小田 穂花
水谷 和香子
水野 未花
宮川 結羽
宮崎 蓮士
宮崎 麻央
武藤 楓
武藤 楓
望月 美弥香
森 彩葉
山中 和侑
山中 咲奈
山本 悠人
吉田 千華
脇阪 希明
脇阪 明莉

西岡 栞音

服部 あゆな
馬場 あゆな
東浦 亮輔
松浦 碧依
松浦 碧依
水谷 杏珠
水谷 杏珠
安江 穂華
矢野 結子
吉田 ゆい
吉本 紋彩

西岡 栞音
服部 あゆな
馬場 あゆな
東浦 亮輔
松浦 碧依
松浦 碧依
水谷 杏珠
水谷 杏珠
安江 穂華
矢野 結子
吉田 ゆい
吉本 紋彩

西岡 栞音
服部 あゆな
馬場 あゆな
東浦 亮輔
松浦 碧依
松浦 碧依
水谷 杏珠
水谷 杏珠
安江 穂華
矢野 結子
吉田 ゆい
吉本 紋彩

西岡 栞音
服部 あゆな
馬場 あゆな
東浦 亮輔
松浦 碧依
松浦 碧依
水谷 杏珠
水谷 杏珠
安江 穂華
矢野 結子
吉田 ゆい
吉本 紋彩

西岡 栞音
服部 あゆな
馬場 あゆな
東浦 亮輔
松浦 碧依
松浦 碧依
水谷 杏珠
水谷 杏珠
安江 穂華
矢野 結子
吉田 ゆい
吉本 紋彩

西岡 栞音
服部 あゆな
馬場 あゆな
東浦 亮輔
松浦 碧依
松浦 碧依
水谷 杏珠
水谷 杏珠
安江 穂華
矢野 結子
吉田 ゆい
吉本 紋彩

西岡 栞音
服部 あゆな
馬場 あゆな
東浦 亮輔
松浦 碧依
松浦 碧依
水谷 杏珠
水谷 杏珠
安江 穂華
矢野 結子
吉田 ゆい
吉本 紋彩

西岡 栞音
服部 あゆな
馬場 あゆな
東浦 亮輔
松浦 碧依
松浦 碧依
水谷 杏珠
水谷 杏珠
安江 穂華
矢野 結子
吉田 ゆい
吉本 紋彩

西岡 栞音
服部 あゆな
馬場 あゆな
東浦 亮輔
松浦 碧依
松浦 碧依
水谷 杏珠
水谷 杏珠
安江 穂華
矢野 結子
吉田 ゆい
吉本 紋彩

西岡 栞音
服部 あゆな
馬場 あゆな
東浦 亮輔
松浦 碧依
松浦 碧依
水谷 杏珠
水谷 杏珠
安江 穂華
矢野 結子
吉田 ゆい
吉本 紋彩

応募点数 14,939点

文部科学大臣賞	1名	名古屋市会議長賞	3名	名誉会長賞	82名
衆議院議長賞	1名	愛知県教育委員会賞	3名	理事長賞	95名
参議院議長賞	1名	岐阜県教育委員会賞	3名	推薦	354名
愛知県知事賞	3名	三重県教育委員会賞	3名	奨励賞	653名
岐阜県知事賞	3名	名古屋市教育委員会賞	3名	特選	1,142名
三重県知事賞	3名	記念賞	22名	準特選	4,455名
名古屋市長賞	3名	中日書道会賞	10名	秀逸	3,741名
愛知県議会議長賞	1名	中日新聞社賞	20名	佳作	2,937名
岐阜県議会議長賞	1名	東海テレビ賞	10名	入選	1,373名
三重県議会議長賞	1名	CBCテレビ賞	10名		

団体賞

- 第一位 牛刀会
- 第二位 書女会
- 第三位 墨游会
- 第四位 牧書会
- 第五位 童友会

新名誉顧問ご就任

東海テレビ放送株式会社社長

内田 優氏

新常任顧問ご就任

安藤 秀川 先生
 梶山 夏舟 先生
 加藤 子華 先生
 近藤 浩乎 先生
 早川 泰山 先生

常任顧問

加藤 子華 先生

令和元年度

地域文化功労者

文部科学大臣表彰

功績概要

文化庁ホームページより引用

永年にわたり、書家として優れた活動をを行うとともに、三重県書道連盟顧問等を務め、地域文化の振興に貢献している。

新入会員紹介 (四月分)

●本部

秋元 花雲	大河内千晴	木本 有理	田中 紫芳	山田 里美
安藤 秀苑	大橋 栖空	杳名 典子	田中 青苑	山田 幽寂
池阪 圭月	大村 知郁	國武 寶珠	津坂 利佳	山田 康貴
石井 麗	岡田 真奈	黒澤百合加	平松 明子	山本 康貴
石川 涼雨	岡地 香予	黄 容琇	筒井 英造	弓 春菜
石寄 博美	岡本 清風	幸村 玉霏	鶴見 弘堂	吉川美由紀
磯野 玲泉	奥野 葉月	後藤 慈恵	富田 穂月	吉田 陶染
伊藤 歌秀	奥山八重子	小林 羅文	中川 映爽	吉田 裕子
伊藤 迅亮	小原 春玲	近藤 慈雅	中川 光舟	若林 碧雲
稲山 沙耶	梶 里沙子	近藤 爽月	中島 安奈	渡辺 菜月
犬飼 紫華	加藤 亜実	櫻井 慧泉	中島 玲子	●一宮支部
井上 淑麗	門松 静紗	佐藤 美泉	中村 姫翠	浅野 映華
今枝 順子	金子 瞳	佐橋 南美	中村 智恵子	堀部よしこ
今橋 久子	壁谷 清蘭	志岐 拓海	堀部よしこ	安福 陽翠
上田 馨星	神谷 歩夢	柴田 吟情	名倉 芳美	板垣 海吾
上田 陵花	唐橋 蘭月	島戸 香蘭	難波 希静	伊藤 翠晨
内海 秀香	河出 長女	清水 雪華	西村 克美	井浪 茉奈
江端 穂香	岸 美木子	島田 純伽	三枝 愛実	馬場 春蘭
大池 那由	北野 愛恵	野田 霞月	松永 翠岳	小笠原美苑
大草 有優	木全 雪華	下野 宏江	堀井 光蘭	木全 春乃
大倉 萌香	木村 秋波	社本 真依	堀田 真由	芝 優杏
		鈴木 亜紗花	堀田 孝雲	富田 朝煙
		鈴木 如扇	藤田 琴乃	安田 麗花
		波多野礼香	藤田 常夫	渡辺 静扇
		羽根田由紀江	船橋明日香	●西三支部
		濱野 和江	若林 碧雲	大竹 園美
		山崎 一慶	船橋明日香	
			渡辺 菜月	
			若林 碧雲	
			寺本 九齋	
			廣野 陽風	
			●中南勢支部	
			西浦 雪花	
			吉尾 綾華	
			●岐阜支部	
			江崎 美樹	
			河村 一雄	
			栗山 万嬉	
			鷺見彩笑子	
			高橋 美春	
			高橋 未歩	
			田中 彩花	
			田宮 佑至	
			平野 夏舟	
			参川 秀岫	
			山田 美穂	
			渡辺 康子	

塾総合保険のご案内

本会では、書道塾を経営されている会員の先生方のバックアップと、塾生の安全と安心のために「塾総合保険」を行っております。

生徒一名に付年額一四〇円で大きな保障となっております。年度途中での加入もできます。保険期間は、その年の十月一日から翌年十月一日までとなります。

この保険は、本会と保険会社が直接契約しているものであるため、少人数での加入ができ、有利な条件となっております。事故はいつ起こるかわかりません。生徒さんの安心と安全のために是非ご加入ください。又既に加入されている皆さんは十月一日が期限ですから、忘れずに契約更新を行って下さい。資料請求、申し込みは本部まで。

補償内容			
賠償事故	塾経営者	対人賠償てん補 限度額	1名 2,000万円 1事故 1億円
		対物賠償てん補 限度額	1事故 100万円
	生徒 法定監督義務者	賠償責任てん補 限度額	1事故 2,000万円
傷害事故	死亡・後遺障害保険金額		100万円
	入院保険金日額		1,000円
	通院保険金日額		500円
	保険料(生徒1名につき年額)		140円

(注) 賠償事故の場合、1事故につき1,000円を自己負担していただきます。生徒の賠償責任てん補限度額は、対人、対物賠償合わせて1事故のみの適用となります。

訃報

心より哀悼の意を表しご報告申し上げます。(厚生部)

○1月26日

正会員 須田白城氏
ご尊父 須田幸蔵様
享年 86

○2月26日

正会員 湯川瞬光氏
享年 76

○1月30日

参与 夫馬千石氏
享年 95

○3月6日

理事 佐野翠峰氏
ご尊父 佐野龍美様

○2月26日

評議員 松田華月氏
享年 64

○11月2日

事後報告
評議員 山田素光氏
享年 74

会費未納の方へお願い

新年度がスタートしました。

令和元年度会費未納の方は、至急お納め下さい。

(正会員で中日書道展不出品の方及び準会員の方で未納の方) 本部会員は、郵便振替 008901614420。支部会員は、各支部会計担当者にご連絡下さい。

住所変更、改姓、改号、社中変更等

変更事項は本部まで(一報下さい)。

052(583)1900

社中展・個展のご案内掲載について

本会会員による書展のご案内を、会報及びHPにて掲載させていただきます。

会報掲載には展覧会案内原稿、HP掲載には展覧会案内ハガキをお送りください。尚、展覧会原稿及びハガキは、必ず封書にてお送りください。次号掲載は、九月中旬～十一月中旬開催の展覧会となります。

お申し込みは、七月末日までに本部までお願いいたします。

編集部

あとがき

中日会報、第一九六号をお届け致します。

世界中の危惧となっております、新型コロナウイルスの影響を、中日書道会も被ることとなってしまいました。

会員の皆様方には、大変残念ではございますが、「第七十回中日書道展」記念事業の「世界の書の祭典二〇二〇」の中止。また、今後の情勢により本年度事業の変更が考えられます。それに伴いまして中日会報の掲載内容も大きく変わってまいります。そのような時にこそ会員の皆様と本会とをつなぐ役割を果たしてまいりたいと考えております。

会員皆様方には、第一にお身体をお守り頂くことを最優先にお考えいただき、この難しい時期を乗り越えて下さいますよう、お願い致します。ご自愛下さいませ。

(編集部)

ホームページアドレス <http://www.cn-sho.or.jp>

メールアドレス info@cn-sho.or.jp

支部だより (令和元年度) 下半期

一宮支部

●研修旅行

日時 十月二十七日(日)
 行先 宇治の旅(宇治平等院、周辺散策)
 参加者 八十九名(内、会員外三十三名)
 朝八時十分一宮を出発。高速を走り「宇治平等院」へ。昼食後、「源氏物語ミュージアム」「宇治上神社」や日本最古の碑と言われる宇治橋断碑の在る橋寺へ。好天に恵まれ、世界遺産二箇所と当地の歴史と伝統文化を満喫出来た有意義な研修旅行となりました。



研修旅行 (宇治橋断碑)

●第六十五回記念一宮支部展

日時 十一月二十三日(土)～二十四日(日)
 会場 一宮スポーツ文化センター
 出品者 支部員 一八九名
 青年部 個人十一名 三団体(六十五名)
 計、七十六名

特別展示 支部先賢遺墨展 十点
 第七十四回一宮市芸術祭参加事業の一環であり、本部からは理事長伊藤仙游先生はじめ、副理事長岡野楠亭先生、同加藤裕先生、同松下英風先生、事務局長横井宏軒先生、企画委員長大池青岑先生の玉作を賜りました。設立六十五周年と致しまして特別展示を開催致しました。先賢各位の在りし日々を偲んで、今後の発展向上に繋がればと存じます。



支部展

●第四十八回一宮支部学生書道展

支部展と同時開催
 総出品点数 三二四八名
 カレンダー書きイベント参加 七五〇名
 会場は多くの出品者やご家族で賑わい、充実した「目の勉強」「親子のふれあい」の場となり、各々が作品を見入る真剣な眼差しが印象的でした。

●支部集会・交流会

日時 二月二十四日(月・振休)
 会場 支部集会Ⅱ一宮スポーツ文化センター
 交流会Ⅱ真清田神社参集殿
 出席者 支部集会Ⅱ九十九名
 交流会Ⅱ八十九名

集会は、本部より副理事長岡野楠亭先生、同松下英風先生にご臨席賜り、令和元年度事業報告と令和二年度事業計画が承認されました。交流会においては、本部の両先生に加え、地元議員の先生方、協賛会員の方々など多くの御来賓をお迎えし、和やかに開催いたしました。

●支部講演会

日時 二月二十四日(月・振休)
 会場 一宮スポーツ文化センター
 講師 名古屋経済大学教授 四辻秀紀先生
 演題 「平安時代のかなの美」
 聴講者 一一一名(内会員外十四名)

日本の書の歴史に於いて欠かす事が出来ない平安時代のかなの法帖をモニターに投影頂きながら各々の特徴を詳細にお話頂き、あつという間のご講演でありました。



講演会

半田支部

●研修旅行

日時 十一月十日(日)
 行先 日比野五鳳記念美術館・西明寺・ミホミュージアム
 参加者 三十六名

秋晴れの中、半田を定刻で出発。少し早めに最初の目的地、日比野五鳳記念美術館へ到着。稀代の書道家として現代の仮名書壇の最高位におられた五鳳先生の漢字の美と仮名の美を統合した日本の書の美を追求された作品を鑑賞、さらに神戸町役場ロビーに山上憶良とその反歌を書にしたものが壁書として彫り込まれていた。一同、感嘆な声とともにカメラのフラッシュ。昼食は西明寺前で戴き、そして参観、沢山の階段を一生懸命のぼり国宝第一号の本堂と国宝の三重塔を参拝、鐘楼で会員一同の健康を祈り一打ち。ミホミュージアムトンネルを抜けると目の前に自然に抱かれた現代の



日比野五鳳先生壁書



西明寺

●支部集会

日時 三月一日(日)
 会場 クラシテイ半田
 出席者 四十九名

本年は新型コロナウイルス感染予防の為、本部の先生方にはご出席をご辞退していただきました。令和元年度事業報告・収支中間報告、令和二年度事業計画・収支予算について審議され承認されました。講演会・交流会は新型コロナウイルス感染防止の為、開催を中止しました。



研修旅行



支部集会

西三河支部

●研修旅行

日時 十月二十九日(火)
行先 観峰館、佐川美術館
参加者 三十三名

書の文化に触れる美術館として有名な観峰館。学芸員による特別展示の山水画の解説、墨、硯など個人ではとても持つことのできない貴重なものばかり。観覧時間がとても足りず、今度来るときはゆっくりと。佐川美術館は、白隠と仙厓展が企画されており、楽しく観ることができました。



研修旅行 (佐川美術館)

●支部会員展

会期 二月十九日(水)～二十三日(日)
会場 岡崎市美術館
出品者 一七六名
入場者 八七九名

本部から、理事長、副理事長、事務局長、企画委員長の出品をいただき、会場も一段と重厚さを感じられました。会員の出品料の一部六万円を中日新聞社会



支部会員展

事業団へ社会福祉のため寄託しました。

●支部集会

日時 二月二十二日(土)
会場 岡崎商工会議所
本部から、伊藤

藤理理事長、松下副理事長、村瀬理事兼庶務部長にご臨席いただき、事業報告、会計報告、事業計画などの審議をいただき、いずれも承認されました。



支部集会

●支部講演会

講師 理事長 伊藤仙游先生
演題 書と私と王鐸
参加者 一〇二名
会員の皆さん

も大いに興味のある王鐸の書法や、それに至るまでの経過についての話がありました。また先生による揮毫があり、筆さばきを充分堪能させていただきました。



講演会

●研究会

新型コロナウイルスの影響で中止としました。

東三河支部

●研修 (講習含む) 旅行

日時 十一月二日(土)
行先 岐阜現代美術館(篠田桃紅作品) ぎふ清流里山公園 大矢田神社もみじ谷

参加者 四十名
秋晴れの中、岐阜美濃加茂市に向けて出発しました。最初に訪れたぎふ清流里山公園では「機織り」「オルゴール作り」「アロマキャンドル作り」の三つのグループに分かれてもの作りを楽しみました。公園の散策もそこそこに、次に向かったのが岐阜現代美術館です。静かな山里の工場の門を入るとありました。ここは篠田桃紅(日本を代表する墨象作家)作品を展示する美術館です。「桃紅リトグラフ作品と音楽の抽象表現に着目した展示」が企画展示されています。作品の前に備えられたヘッドホンをつけて目の前の作品を眺めると、流



研修旅行 (岐阜現代美術館)



講習会 (機織り)

れてくる音によって薄墨の抽象表現が何となく理解できよう

な気持ちになりました。専属の学芸員が工場の事務所棟にも案内してくれました。会議室、通路等様々な空間に桃紅作品が展示されており、代表的な作品をいくつか鑑賞することができました。桃紅作品の感動を語り合いながら、長良川河畔で遅い昼食をとり、大矢田神社もみじ谷を散策して帰路につきました。



大矢田神社もみじ谷

●支部選抜展

会期 一月二十八日(火)～二月二日(日)
会場 豊川市桜ヶ丘ミュージアム第一室
出品数 六十二点
入場者 三七一名

顧問の村田華穂先生、権田穂園先生、古川昇史先生、参与の鈴木瑞象先生、内藤大旺先生に玉作を出品していただき、各社中からは会員二分の一の個性あふれる作品が出品されました。作品は半切程度の小振りな作品でしたが、様々な書風が展示され、地域の書道を愛する方々に興味深く鑑賞いただき、落ち着いた雰囲気の中最終日を迎えることができました。



支部選抜展

濃飛支部

●研修旅行

日時 十一月二十三日
行き先 岐阜県西濃地方(日比野五鳳記念美術館、南宮大社、海津南濃みかん狩り)

参加者 二十六名

高山―下呂―中津川―恵那―瑞浪で会員を乗せバス一台の研修旅行です。最初は、安八郡神戸町にあります日比野五鳳記念美術館を見学しました。この記念館は五鳳の生家跡に建てられていました。展示期間は春季展と秋季展と二回あります。収蔵作品は約三〇〇点、丁度秋季展が開かれていました。第一展示室に二十四作品第二展示室に二十二作品が展示されていました。どの作品も漢字の美と仮名の美を統合した日本の書で高い芸術性を感じました。人間の温かみを感じられ数多い作品に魅せられました。日比野光風先生の作品にもお目にかかりました。岐阜県

地にこんなすばらしい書家がいらっしやっった事を誇らしく思いました。『も、栗三年柿八年ユズは大馬鹿で十八年』の作品に親しみを感じました。我が家の柚子は八年目にやっ



南宮大社

てればそれ位かかるのかなと思いました。その後南宮大社を参拝しました。海津郡南濃町のみかん山へ伺いました。こんな地にみかん狩の出来る所があることに驚きました。みかんは早生でいっぱい実っていました。お土産にみかんを一杯買って帰路に向いました。天気にも恵まれ会員相互の交流も深められ有意義な研修旅行を無事終えることが出来ました。



研修旅行



日比野五鳳記念美術館

北勢支部

●研修旅行

日時 十一月十七日(日)
行き先 富岡鉄斎美術館資料館

参加者 三十三名

秋晴れの中、新名神を通って宝塚へ出発しました。紅く色付いた山々の景色を見ながら清荒神清澄寺に到着しました。龍が天に昇る姿を表しているというゆつくりとした登り坂の参道を歩き山門をくぐると、そこには大変広い境内があります。富岡鉄斎美術館「聖光殿」は資料整理で休館であった為、資料館に行きました。勤皇家として知られる鉄斎の絵や書「天子知名」の印等を鑑賞し、清澄寺を拝観、「火の神さま」で知られ、人の背丈もある火箸が奉納されている三宝荒神社を参拝しました。その後、宝塚ワシントン・ホテルで昼食をとり、宝塚大劇場や手塚治虫記念館へ通ずる「花のみち」をタカラジェンヌの気分になりながら散策し帰路につきました。お天気にも恵まれ、楽しい時間を過ごすことが出来ました。

●講習会

日時 二月二十四日(月祝)

場所 じばさん三重

講師 伊藤佳子先生

講師に地元四日市で活躍されている「手描き染め工房 彩の会」主宰伊藤佳子先生

をお迎えして「布を染めて字を書こう」というテーマで始まりました。まず先生から布の半分を屏風だたみに折り、次に小さな正三角形を作る折り紙染めの手解きを受けた後、好きな色の染料に布を浸し指でモミモミしてその横に違う色を重ねたり、一色で濃淡を出して染めたりしました。残り半分を輪ゴムで数ヶ所縛り染める絞り染めを体験し「イチゴケーキよ」と布全体を数十ヶ所縛り赤一色に染めた作品もあり、ドライヤーで乾かした布に、こころやさしくうつくしく...と仮名で書く人、調和体、篆刻で書く人、それぞれ思い思いの文字を書き入れ世界に一つだけの作品ができあがりました。それらの作品は今年の北勢支部展に展示する予定です。



講習会

中南勢支部

●研修旅行

日時 十月二十日(日)
 行先 愛知県半田市(蔵のまち)
 ゴンギツネや赤い鳥でおなじみの新美南吉記念館に行き、たくさんの著書と作品を見せていただきました。その後赤レンガビル工場とミツカンミュージアムを見学、運河も散策しました。
 楽しそうに釣り糸を垂れている夫婦、ゆつくりと流れる河。そしてさわやかな秋風に吹かれながら帰りの途につきました。



研修旅行

◎支部集会・講演会
 日時 十一月十六日(土)
 会場 三重県立美術館講堂
 本部より伊藤仙游理事長、横井宏軒事務局長に御臨席を賜り、事業報告、会計報告、その他の議案を無事承認していただき終了させていただきました。その後講演会を同会場にて開催し、松阪市の文化財を研究しておられる辻富美雄先生に「文字を使う人々のいとなみ」と題して講演をしていただきました。県内外の街に住む人々の身近な文化財などを紹介していただきました。そして私達とは少し違った目線のお話もありました。これからは文化財を見るたびに

辻先生のお話を思い出すと少し見る目が変わりそうです。
 場所を移し、津駅に近い日本料理のお店で鬼頭翔雲名誉副会長、伊藤仙游理事長、岡野楠亭副理事長、横井宏軒事務局長のご臨席のもと和やかな懇親会となりました。

◎支部会員展

今年も十一月十三日から十七日まで三重県立美術館にて会員展を開催しました。本部の先生方の作品をお借りして、県民ギャラリー一杯の作品を飾ることができました。漢詩や和歌の古筆の勉強から、楷行草かな、篆刻に調和体と多様な書に触れることができる展覧になりました。今回は本展で飾られた日本の元号、二四八点も同時に壁面一つを使い展示いたしました。
 見に来ていただいた方にもじつとその場を離れず熱心にご覧いただいたおりました。後ろに目をやると、今後中日書道会の会員となろう子どもたちの作品も併せて展示し、その作品の横で記念写真を撮っている家族を見てほのぼのとした雰囲気になりました。来年も趣向を凝らし新しい挑戦をしたいと思っています。



支部会員展

岐阜支部

●支部研修旅行

「大徳寺黄梅院 京都国立近代美術館」を訪ねて
 日時 十一月二十九日(金)

暖かく好天に恵まれ、三十七名が京都大徳寺へ。山門を一步入ると紅葉が赤く色づき、足元には青々と苔が。とても美しい。秋の特別公開期間お庭も「直中庭」といい秀吉の意で千利休が作庭とか。その庭園を眺め回廊を渡り、重要文化財の本堂、庫裡を見学、内部は仏間を中心にくつもに分かれどの部屋にも水墨の襖絵が描かれ、感慨深いものがありました。昼食を終え、近代美術館へ、円山応挙が十八世紀に、写生画というジャンルを。この写生画が爆発的な人気を得、一気に京都画壇に花を咲かせることに。始めは草花、犬、猫、猿等の動物の一本、一本の毛に至るまで、丁寧にスケッチ。それを正確に作品化、大変なお仕事だなあ。本物そっくり。すばらしい。何度見てもすばらしい。
 予定通り岐阜へ。



研修旅行(大徳寺)

●伊藤仙游先生

公・社中部日本書道会
 理事長ご就任祝賀会

日時 二月二十四日(月・祝)
 会場 グランヴェール・岐山

令和元年六月伊藤仙游先生が、公・社中部日本書道会の理事長にご就任されて以来、この喜びを会員の皆様と共に祝したいと願っておりましたが、漸くかない、祝賀会を催すことが出来ました。冬うららの暖かい日、ご来賓の本部の副理事長、加藤裕先生、事務局長の横井宏軒先生をはじめ多くの皆様方のご出席を頂き、まことにありがとうございました。お祝辞も、ご来賓の先生、常任顧問の松永先生、顧問の安藤先生から頂きその後、伊藤理事長から、「過分のお褒めや、励ましのお言葉を頂き頑張ろうと力をいただきました。又イベント等で多くの人を集まって頂き、書は見るも、書くも楽しいし、感動もするよ」と、多くの皆さんに広められるよう頑張ってください。」との謝辞を頂き。余興に入り、和やかなうち、閉会。



理事長ご就任懇親会



常任顧問祝辞



懇親会
役員挨拶